

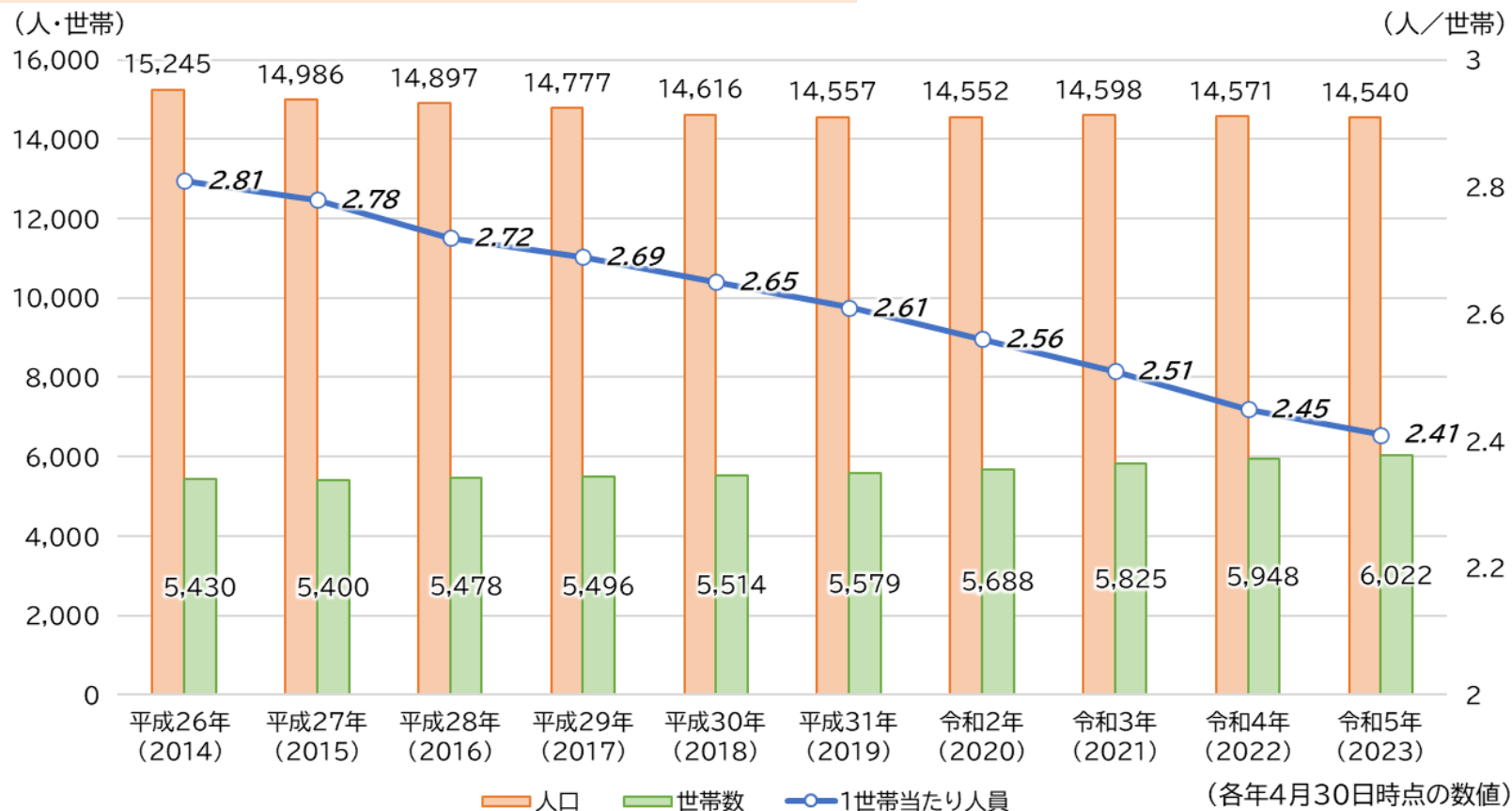
【第2回】 巨理町総合発展計画審議会

R7.1.28

次期総合発展計画策定に係る検討資料

1. 現況の再整理-----ページ番号 P.3
2. 町民アンケート調査結果の報告-----ページ番号 P.14
3. 中学生アンケート調査結果の報告-----ページ番号 P.32
4. 中学生ワークショップの調査結果の報告-----ページ番号 P.37
5. 亘理町におけるまちづくりの課題・方向-----ページ番号 P.38
6. 目指すべきまちの将来像について-----ページ番号 P.40

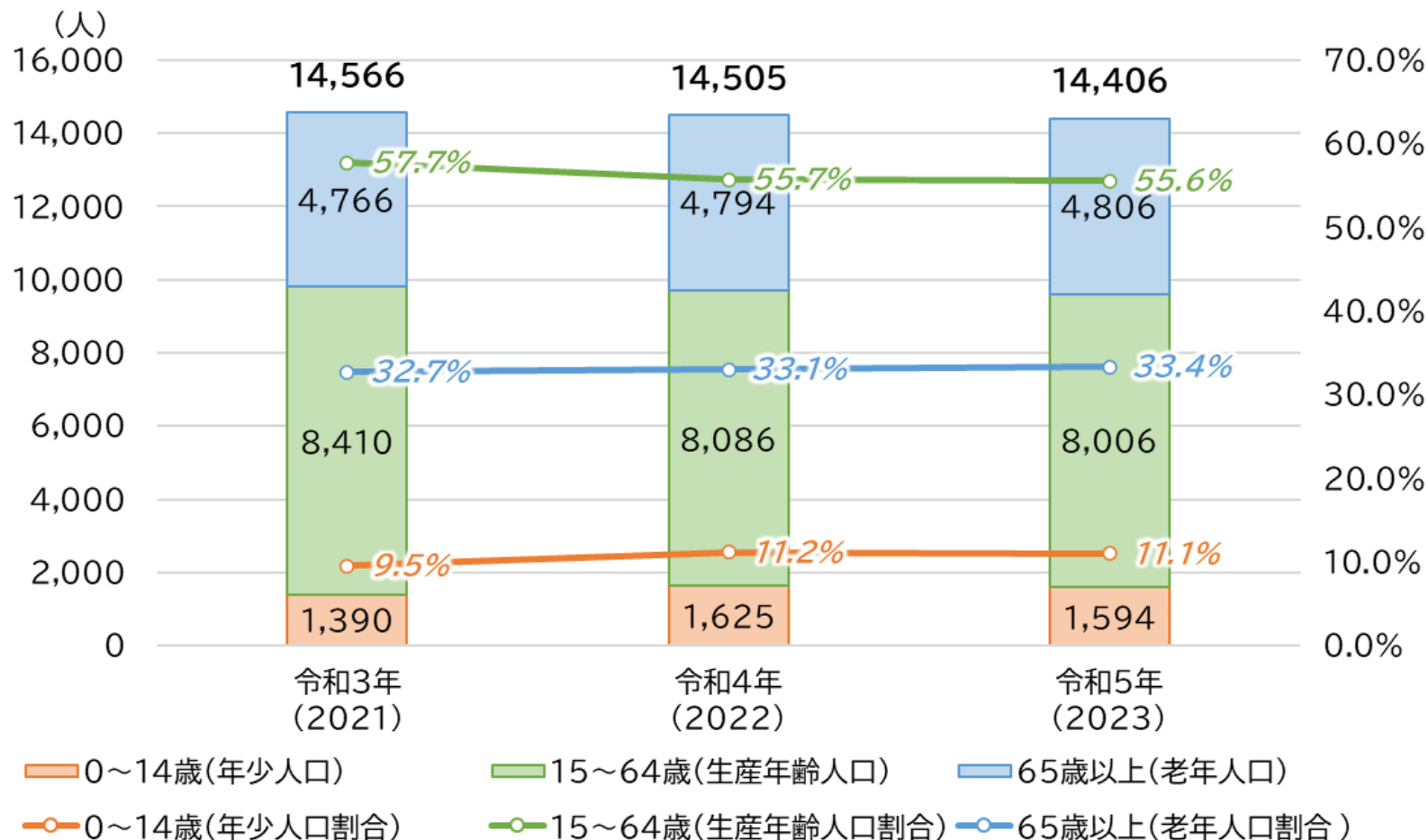
“【巨理地区】の総人口・世帯数の推移”



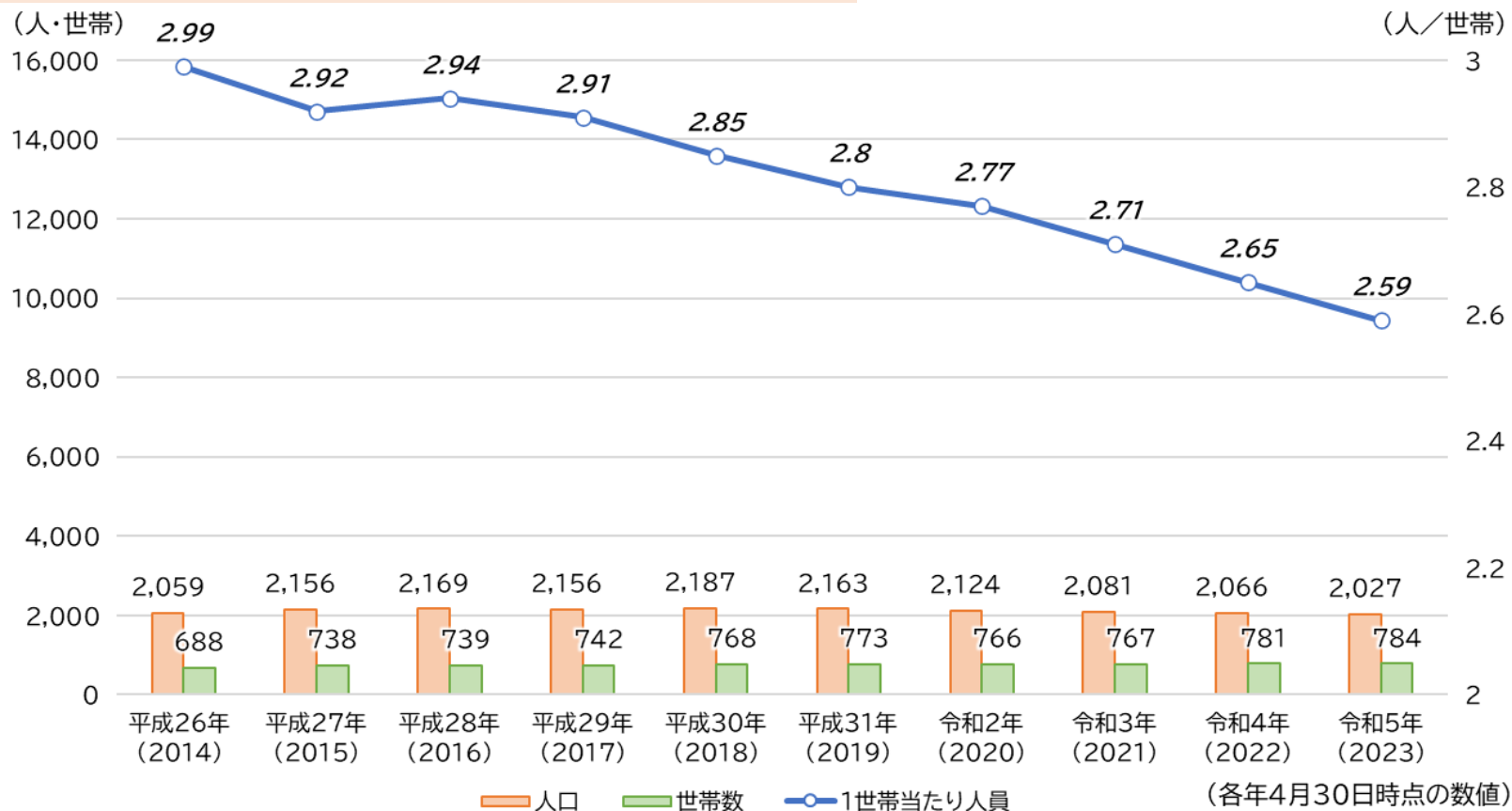
巨理地区の人口はやや減少傾向にあり、平成26年(2014)は15,245人だったが、令和5年(2023)には14,540人と約700人減少している。

また人口が減少しているが、世帯数が増加していることから、世帯人員が減少しており、令和5年(2023)は2.41人/世帯となっており、4地区の中では最も低い世帯人員となっている。

“【巨理地区】の総人口・年齢3区分別人口の推移”



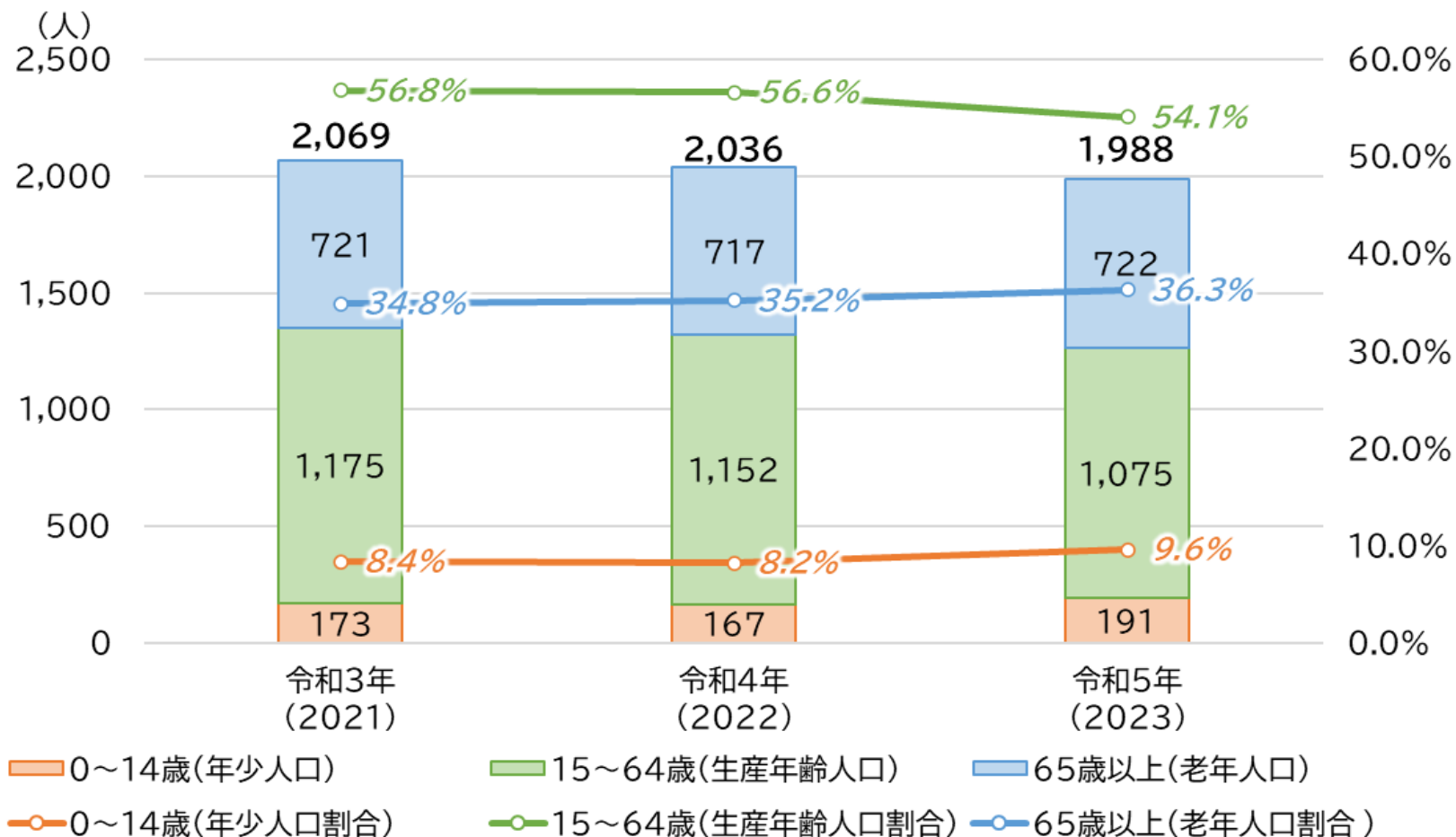
“【荒浜地区】の総人口・世帯数の推移”



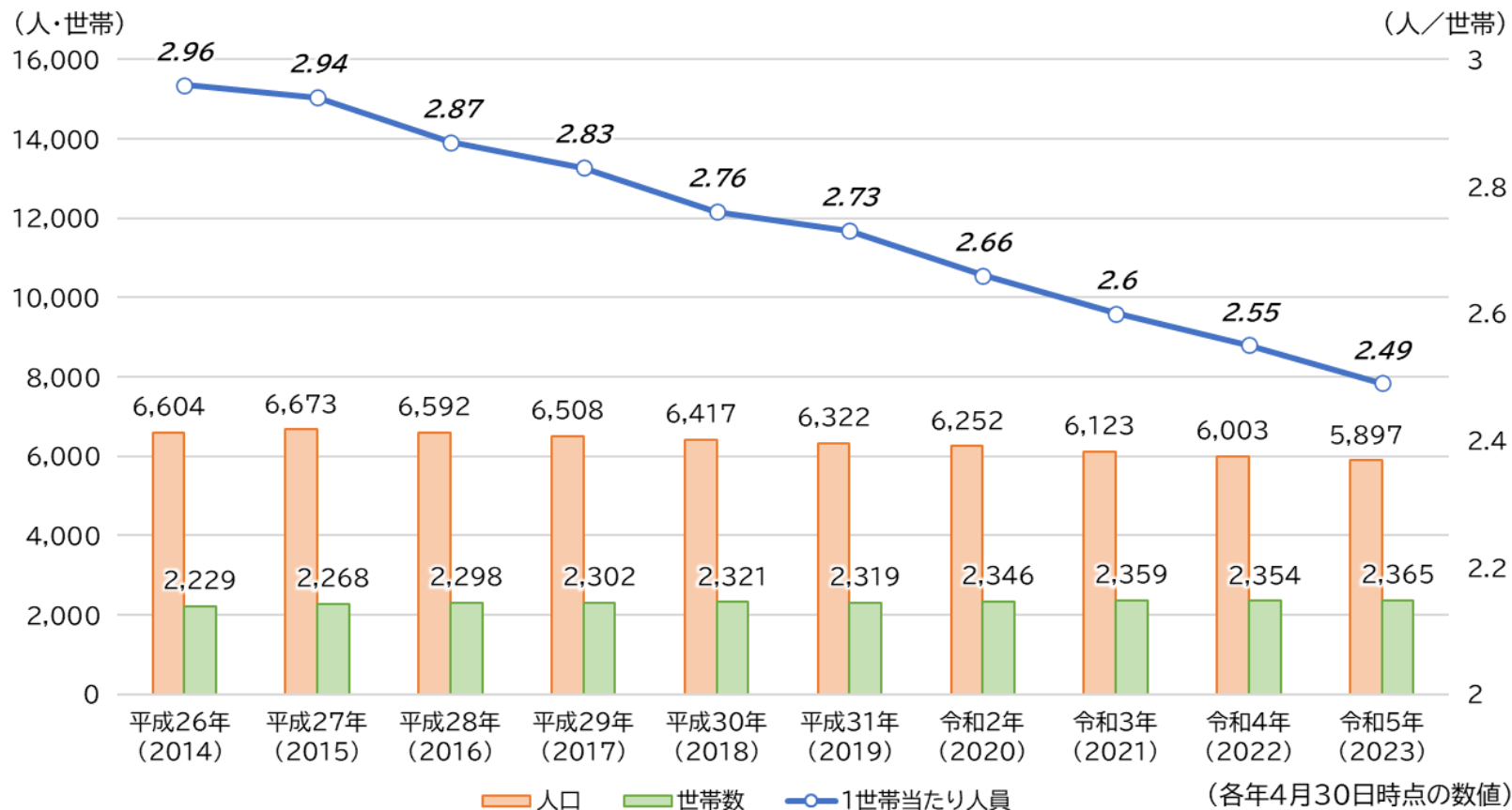
荒浜地区の人口はやや減少傾向にあり、平成26年(2014)は2,059人だったが、令和5年(2023)には2,027人と約30人減少している。

また人口が減少しているが、世帯数が増加していることから、世帯人員が減少しており、令和5年(2023)は2.59人/世帯となっており、4地区の中では2番目に高い世帯人員となっている。

“【荒浜地区】の総人口・年齢3区分別人口の推移”



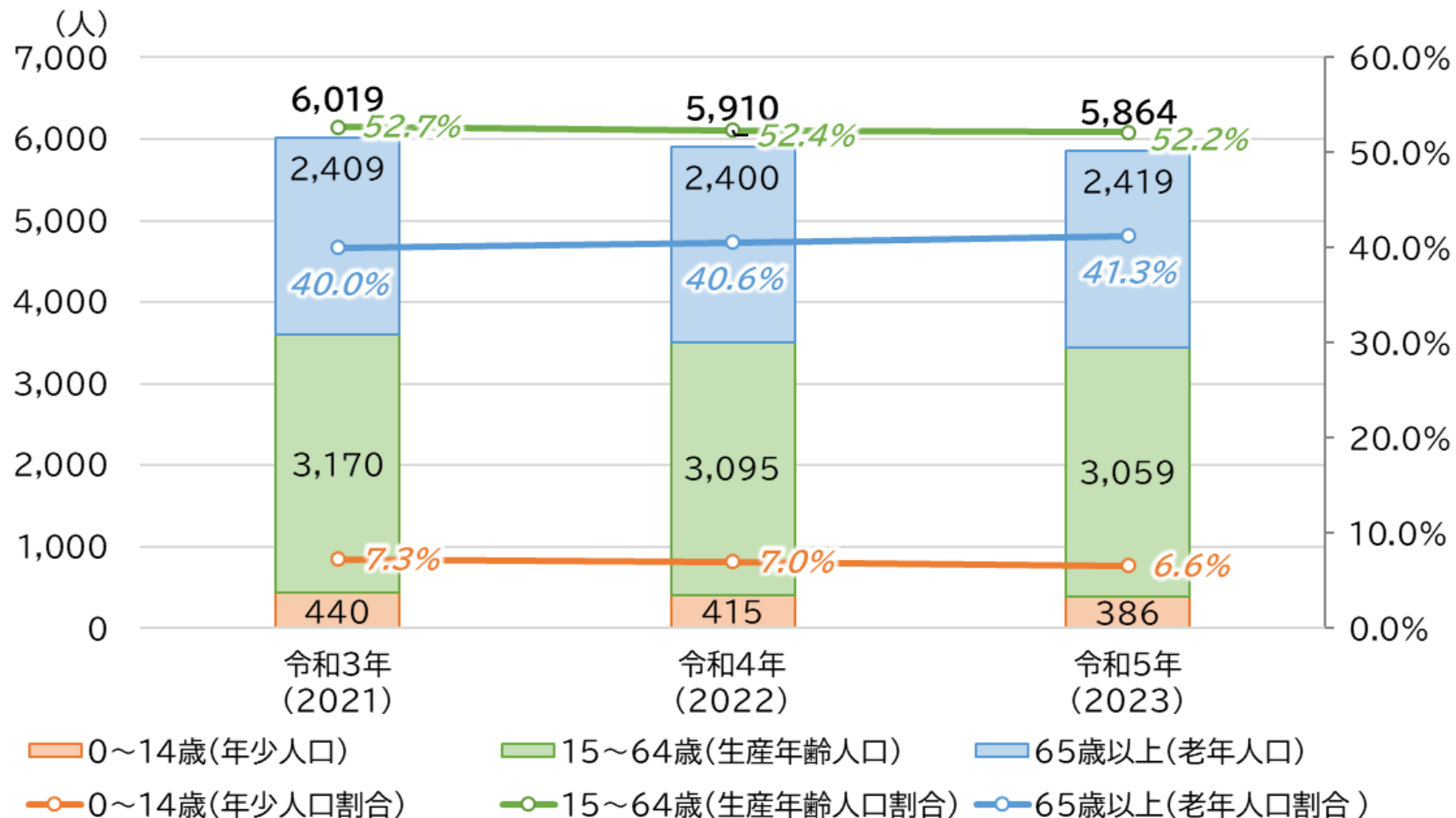
“【吉田地区】の総人口・世帯数の推移”



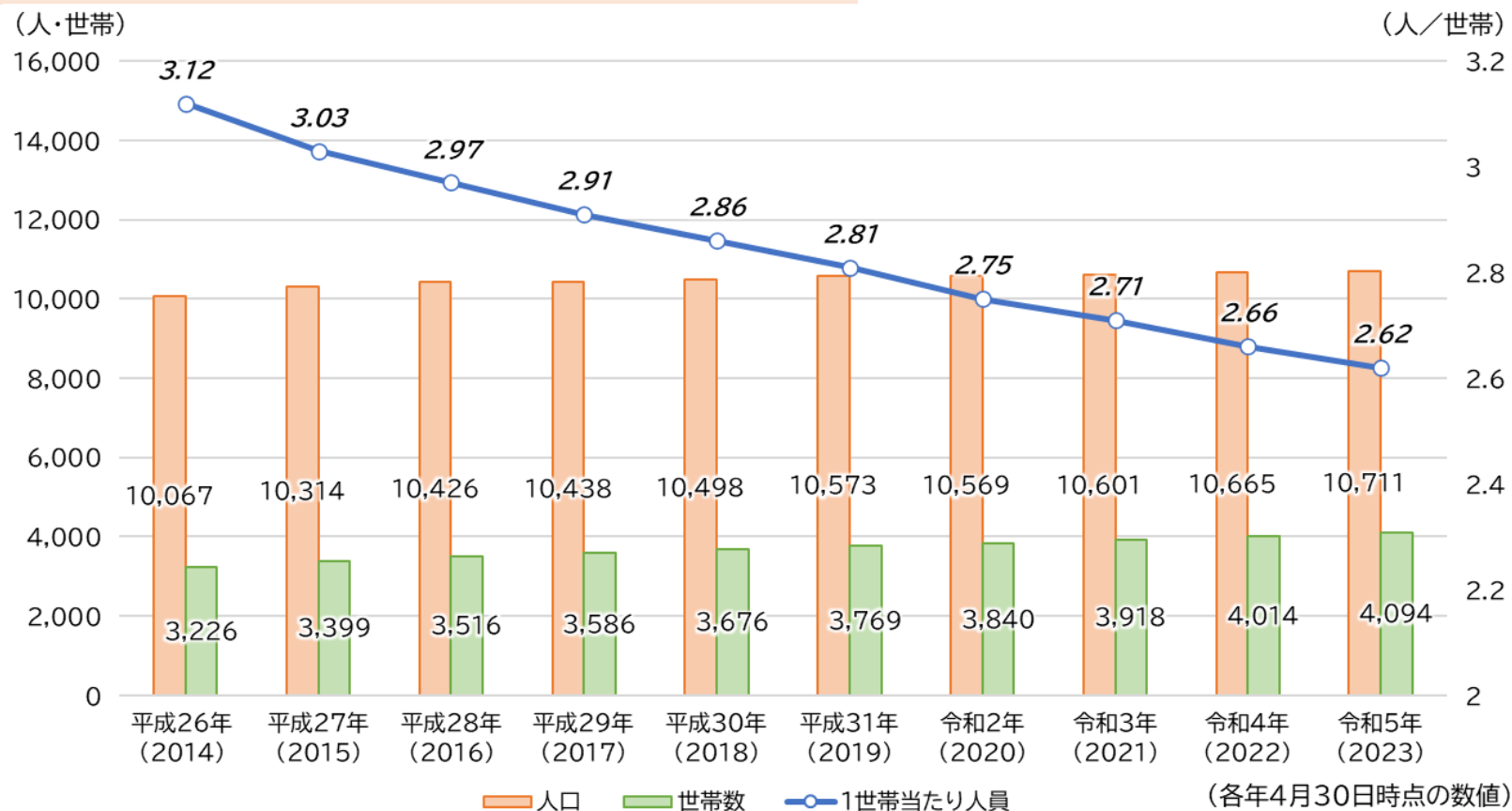
吉田地区の人口は減少傾向にあり、平成26年(2014)は6,604人だったが、令和5年(2023)には5,897人と約700人減少している。4地区の中では、最も人口減少率が高い地区となっている。

また人口が減少しているが、世帯数が増加していることから、世帯人員が減少しており、令和5年(2023)は2.49人/世帯となっている。世帯数の増加率は、4地区の中では最も低くなっている。

“【吉田地区】の総人口・年齢3区分別人口の推移”

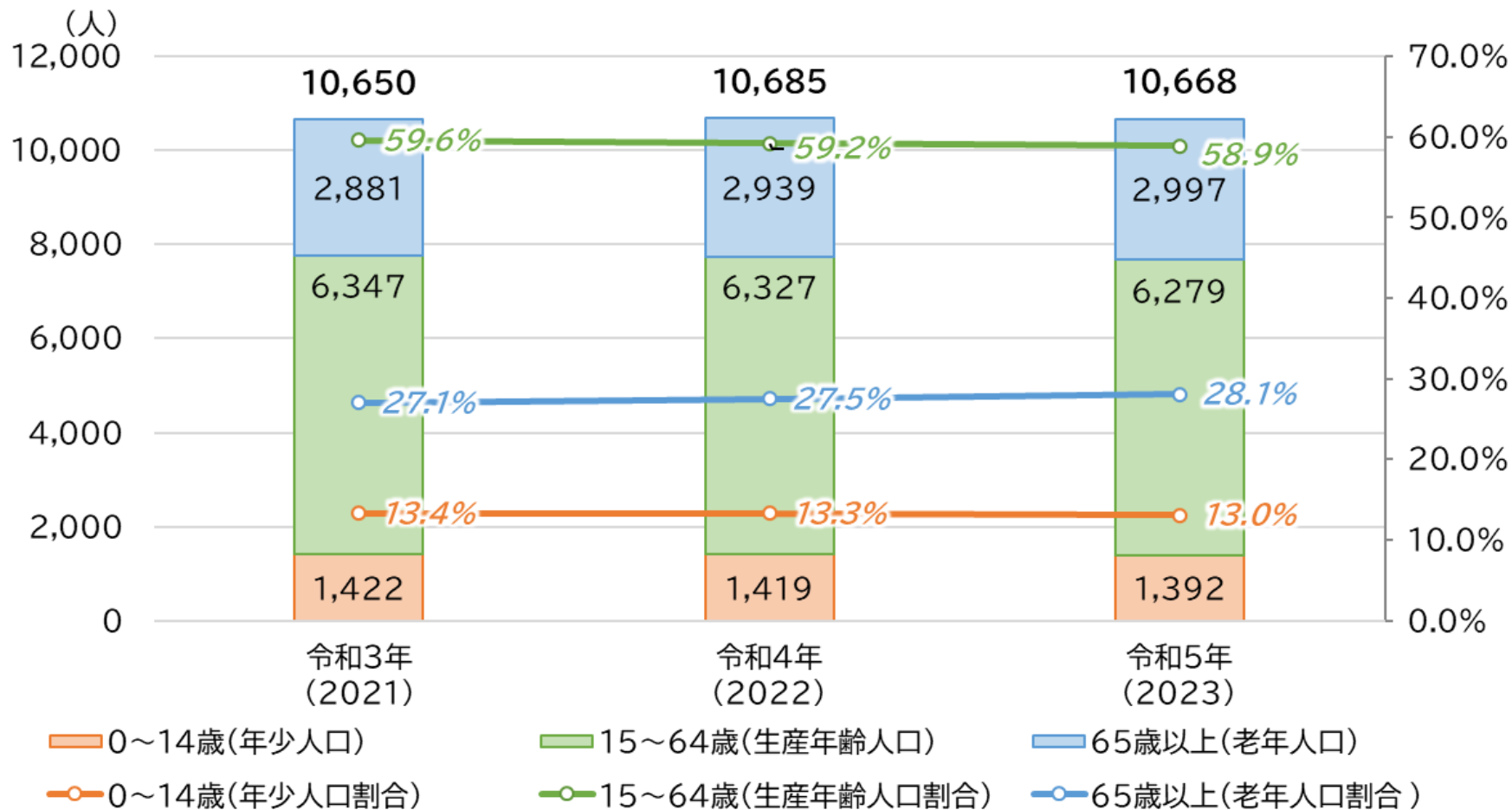


“【逢隈地区】の総人口・世帯数の推移”

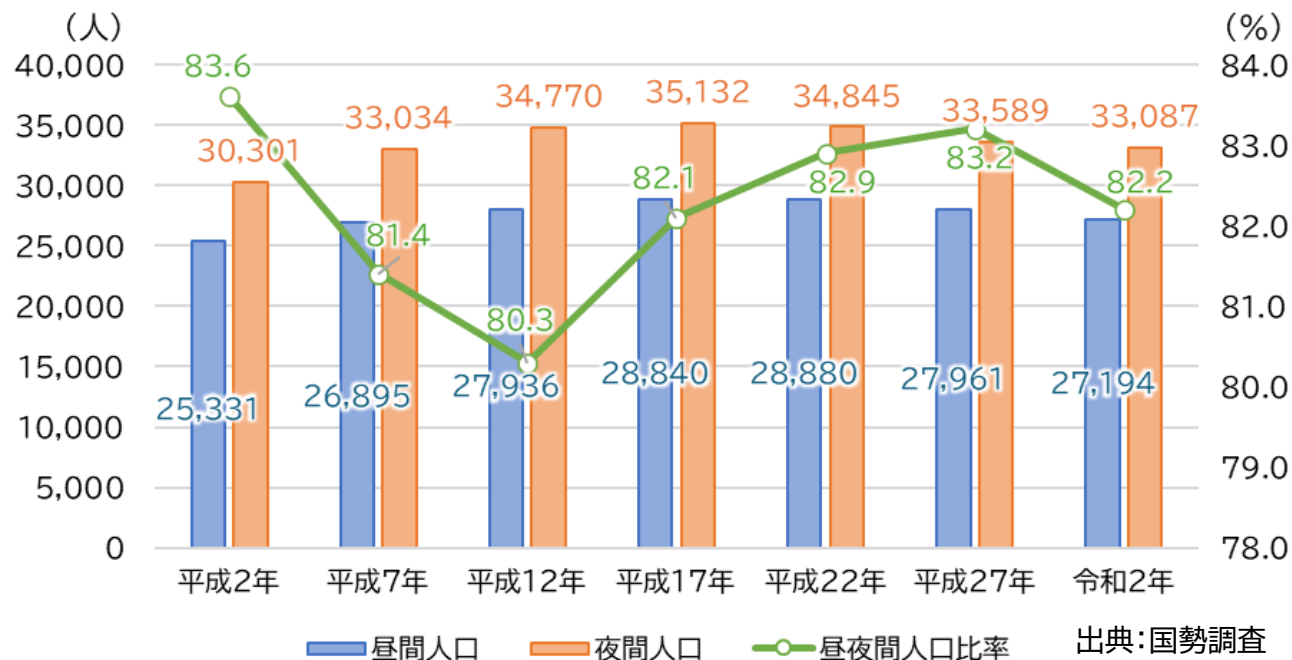


逢隈地区の人口は増加傾向にあり、平成26年(2014)は10,067人だったが、令和5年(2023)には10,711人と約600人増加しており、4地区の中では、唯一の人口が増加している地区となっている。
 また人口が減少しているが、世帯数が増加していることから、世帯人員が減少しており、令和5年(2023)は2.62人/世帯となっており、4地区の中では最も高い世帯人員となっている。

“【逢隈地区】の総人口・年齢3区分別人口の推移”



“昼間人口・夜間人口・昼夜間人口比率の推移”



昼夜間人口比率が概ね82%前後で推移していることから、亶理町民の多くが通勤・通学等で、町外に流れている状態を表している。(昼夜間人口比率が高い地域の例:大衡村(R2,約183%))

【用語解説】

○昼間人口

就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口。亶理町民も町外在住の方も含めて、日中に亶理町内で従業・通学している人口。

例：岩沼市に住んでいるが、職場は亶理町という方や亶理町に住んでいて亶理町で働いている方。

○夜間人口

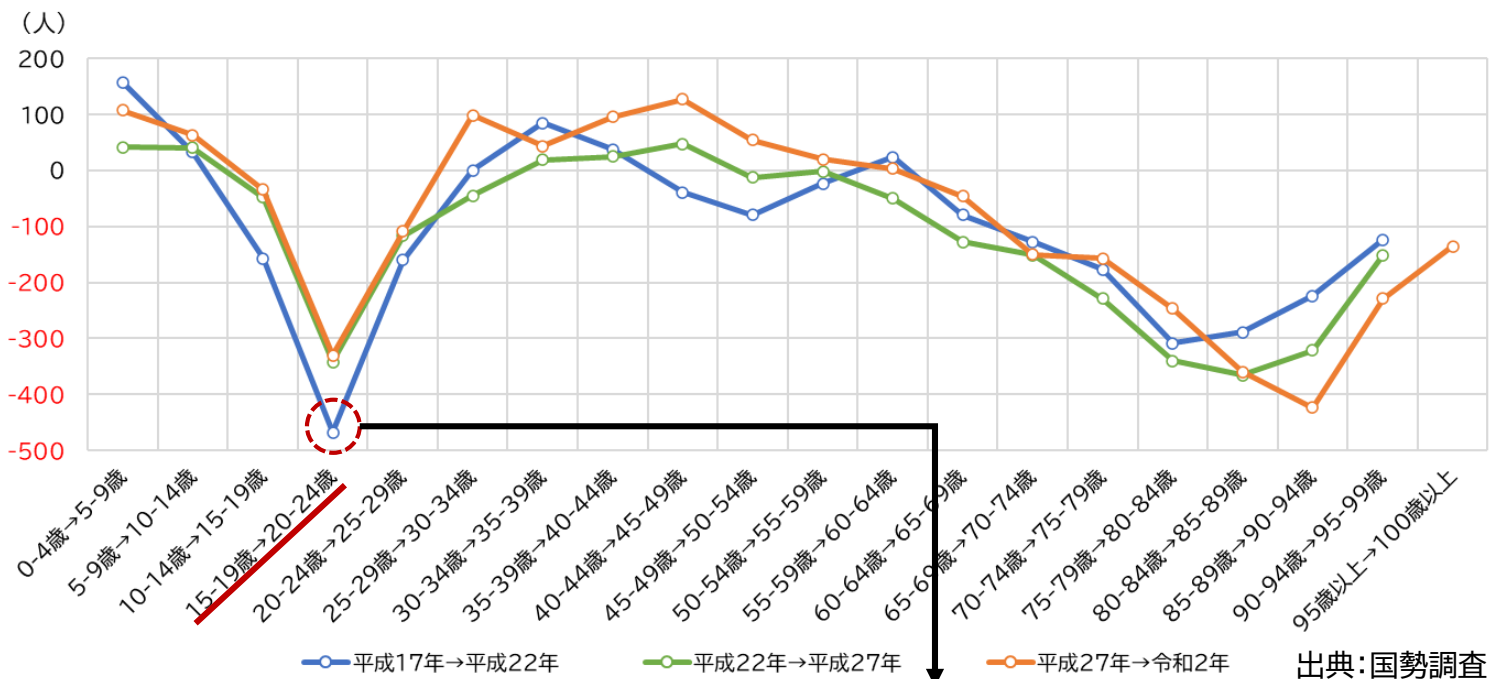
夜間に常在する人口。(=亶理町の人口)

○昼夜間人口比率

夜間人口(常住人口)に対する昼間人口の割合。昼夜間人口比率が100を超えている場合は人口の流入超過、100を下回っている場合は流出超過を示している。

出典:国勢調査

“5歳階級別人口推移の推移”



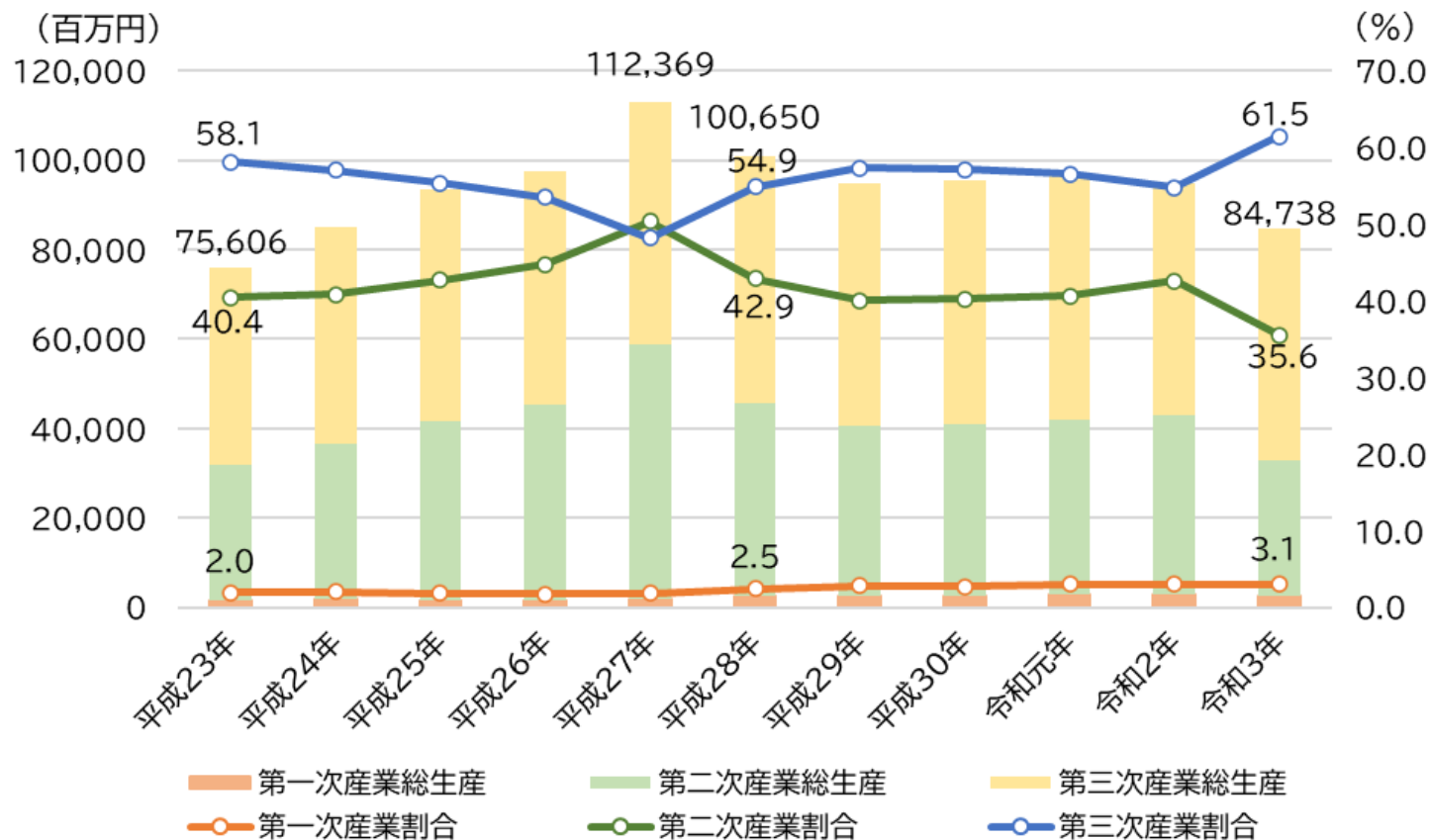
【グラフの見方】

「平成17年→平成22年」の「15-19歳→20-24歳」を例にする。

平成17年の「15-19歳」の人は、平成22年に「20-24歳」になっており、町外に誰一人も引っ越し等で出ていかなかったり、誰一人も町外から引っ越して来なかったりすれば、平成17年の「15-19歳」の人口と平成22年の「20-24歳」は同じになる。

しかし、町民が進学や就職等で町外に転出したり、町外の人が転入したりすることで、人口の増減が生まれるため、年齢ごとにどの程度増減しているかを示している。

“産業分野別生産額の推移”



第二次産業の総生産額が平成27年をピークに減少傾向にあることについては、平成23年からの推移を比較すると、東日本大震災後に増加してきていることから、災害復旧に関連する造成工事等が増加し、平成27年にピークを迎えたことも関係することが推測される。

出典: 国勢調査

産業分野別生産額は、平成27年をピークに減少傾向にある。第1次産業と第3次産業が占める割合は増加しているものの、第2次産業の割合が減少している。

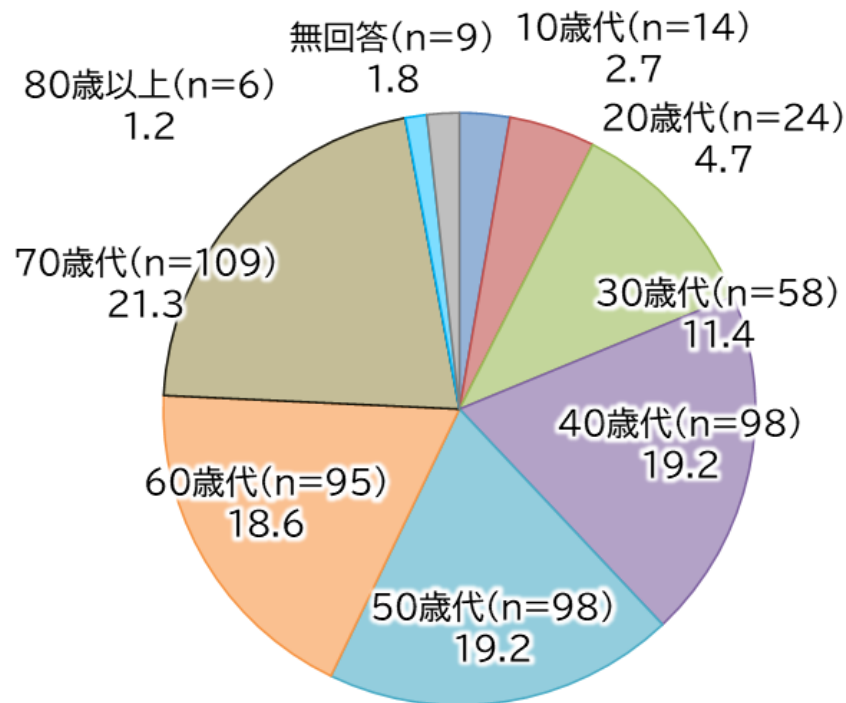
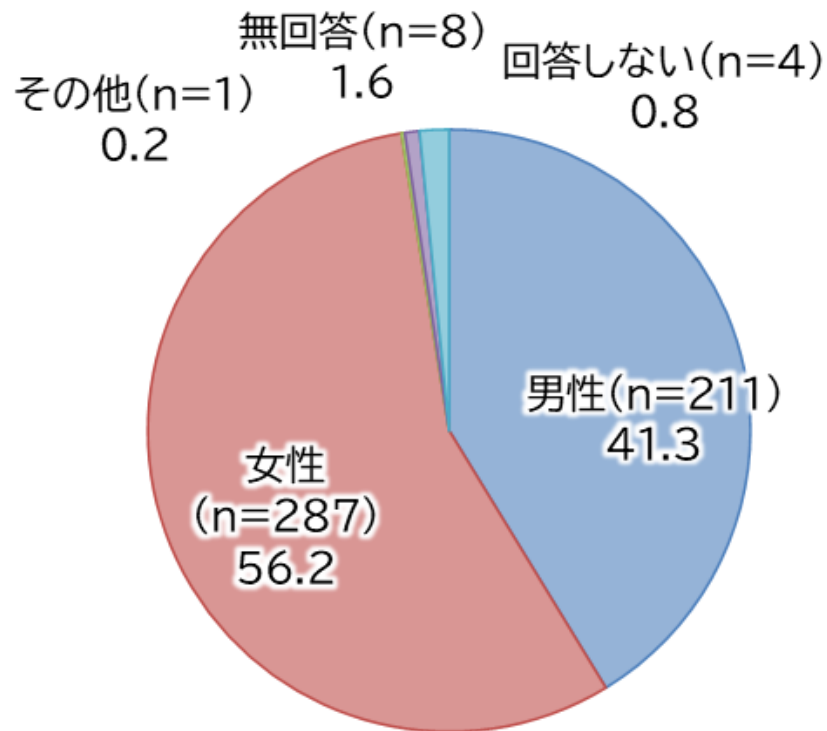
“町民アンケート調査概要”

調査対象	2024年9月7日(土)～25日(水)
調査期間	16歳以上の亘理町民 2,000名
実施方法	①調査票による直接配布・回収 ②調査票に記載の二次元コードからのWEB回答 ※重複回答を防止する識別番号を付与して実施
回収数	511件(9月30日時点)
回収率	25.5%
必要標本数	380件 ※設定条件 信頼レベル:95% (どのくらいの確率で許容誤差内の結果となるかを表す指標) 許容誤差:5%(どの位ずれている『可能性』があるかを表す)

※アンケート調査結果について、紙面の都合上、概ね5%以下は数値を非掲載

“町民アンケート調査回答者属性”

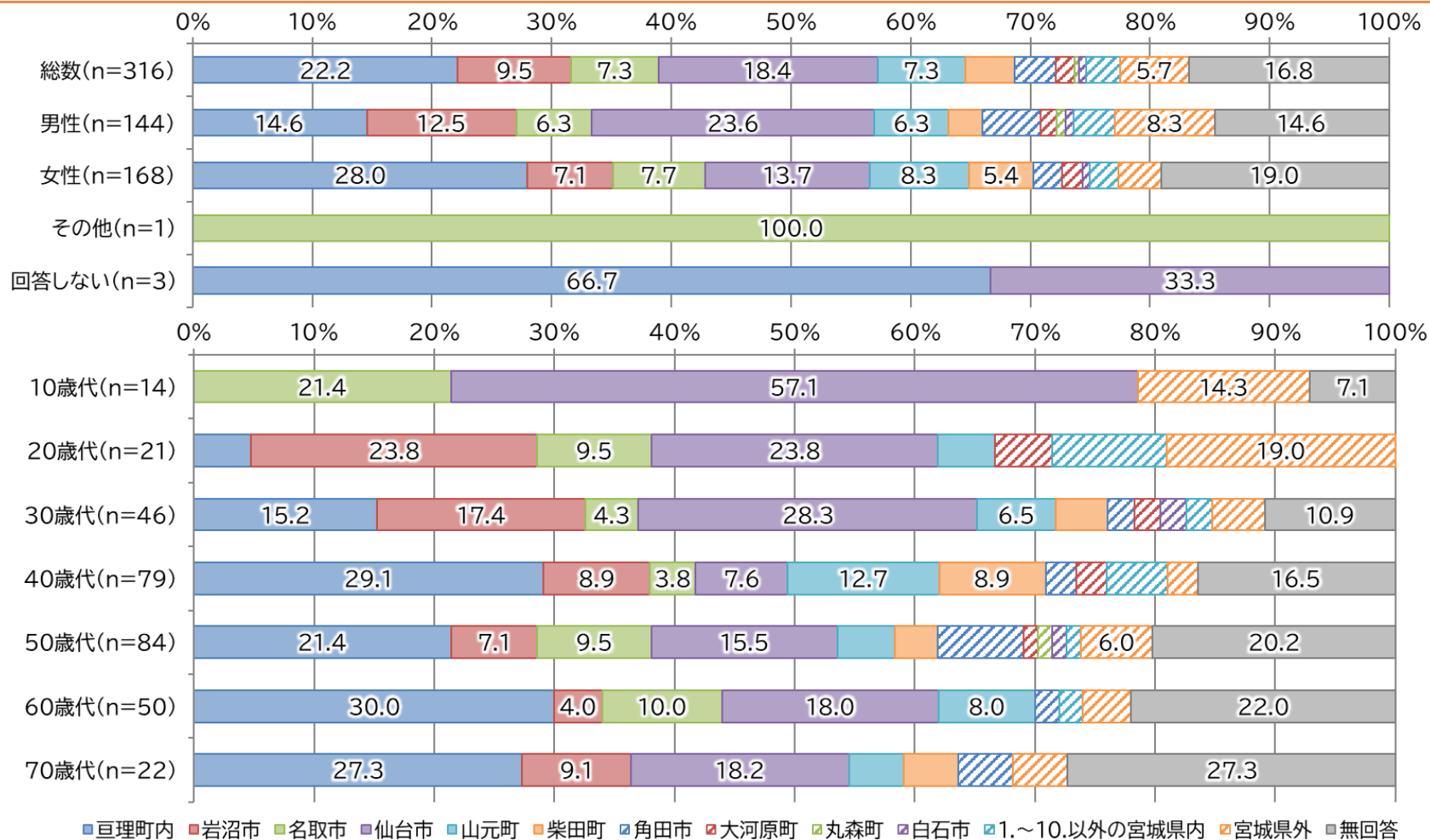
《回答者属性》



2. 町民アンケート調査結果の報告

Q. 通勤・通学先（通勤・通学をしている方のみ回答、男女別・年代別クロス集計）

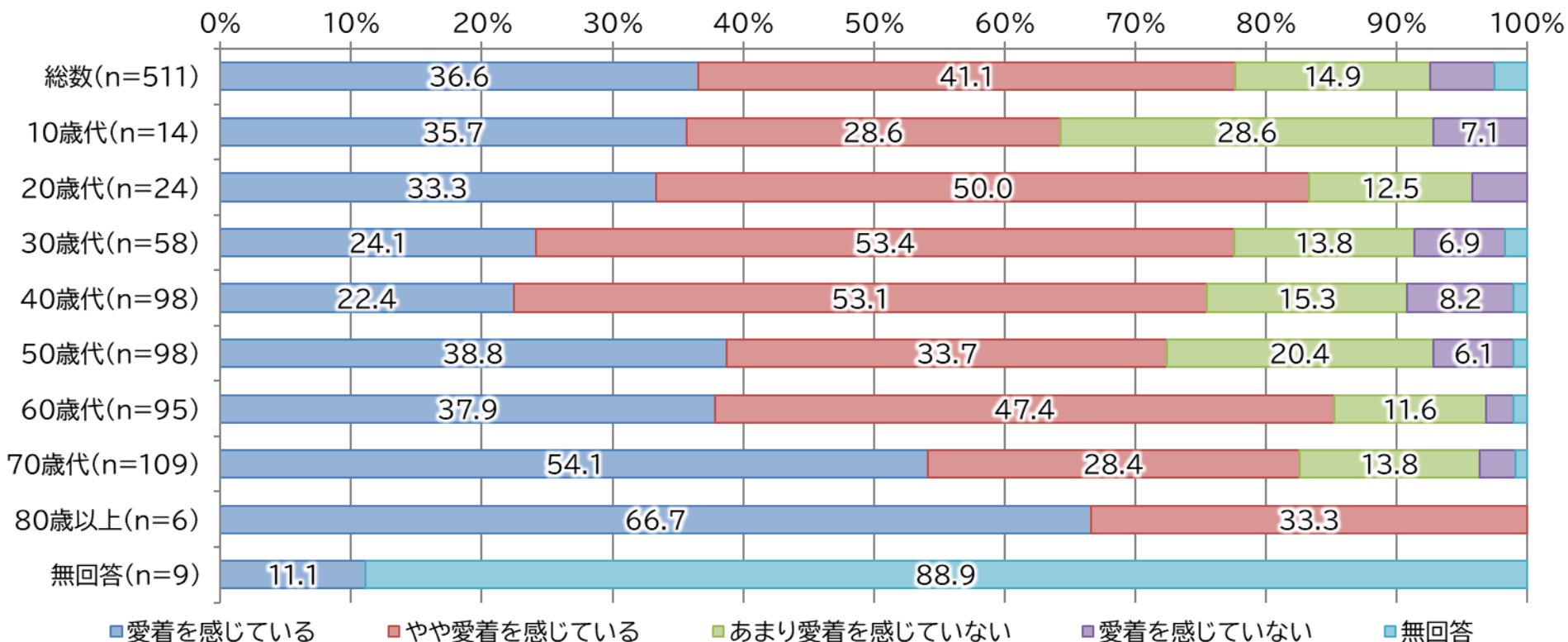
通勤・通学先は、男性より女性の方が亶理町内が多く、年代が上がるにつれて亶理町内が多くなっている。10歳代、20歳代は町内より岩沼市、仙台市が多くなっている。



2. 町民アンケート調査結果の報告

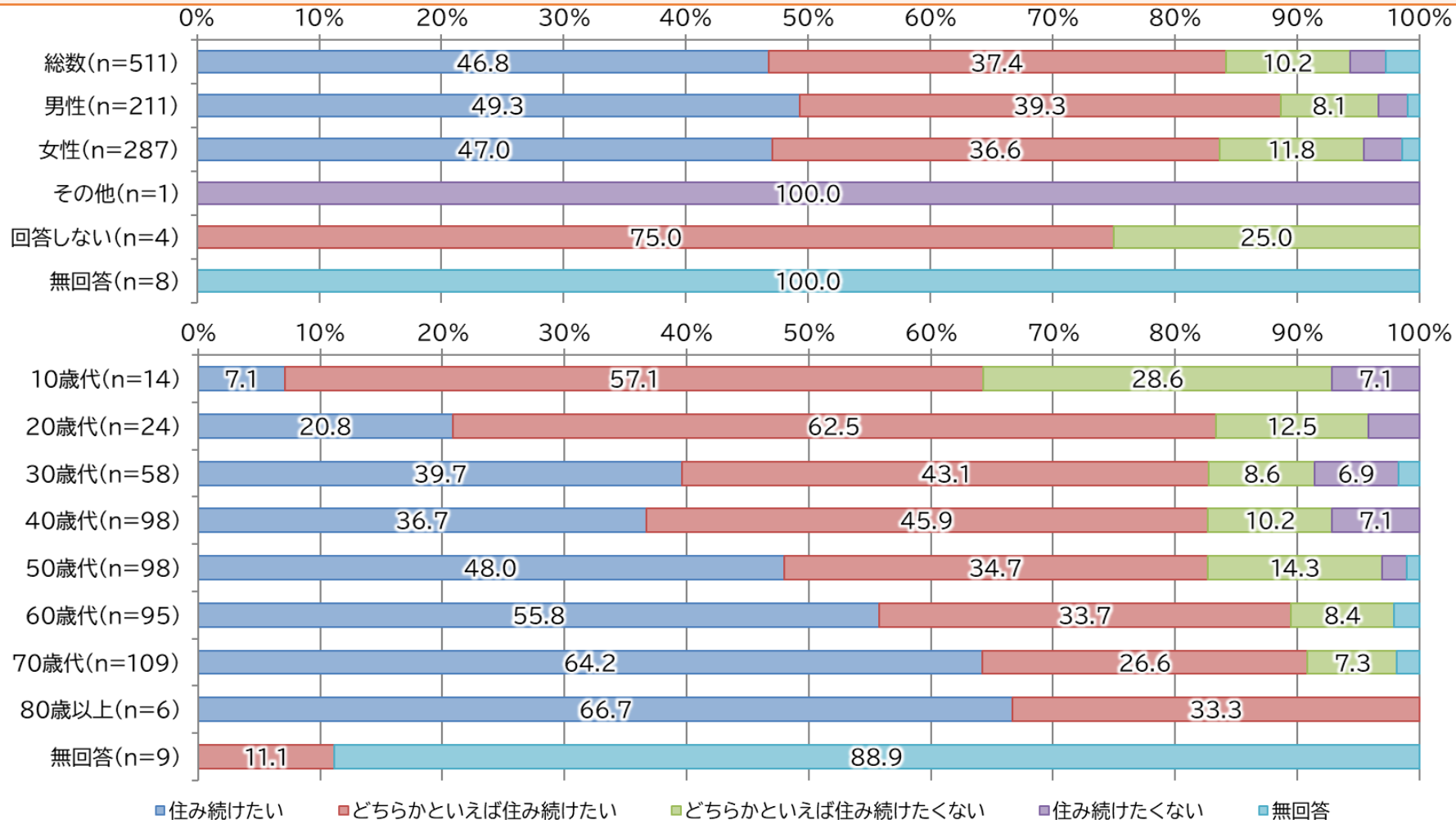
Q. 亘理町に対する愛着や誇りの有無（年代別クロス集計）

愛着や誇りは、全体の約77%が愛着は誇りを感じている。10歳代と50歳代が他の年代と比較いて愛着や誇りを感じていない傾向にある。



Q. 亶理町への今後の居住意向（男女別・年代別クロス集計）

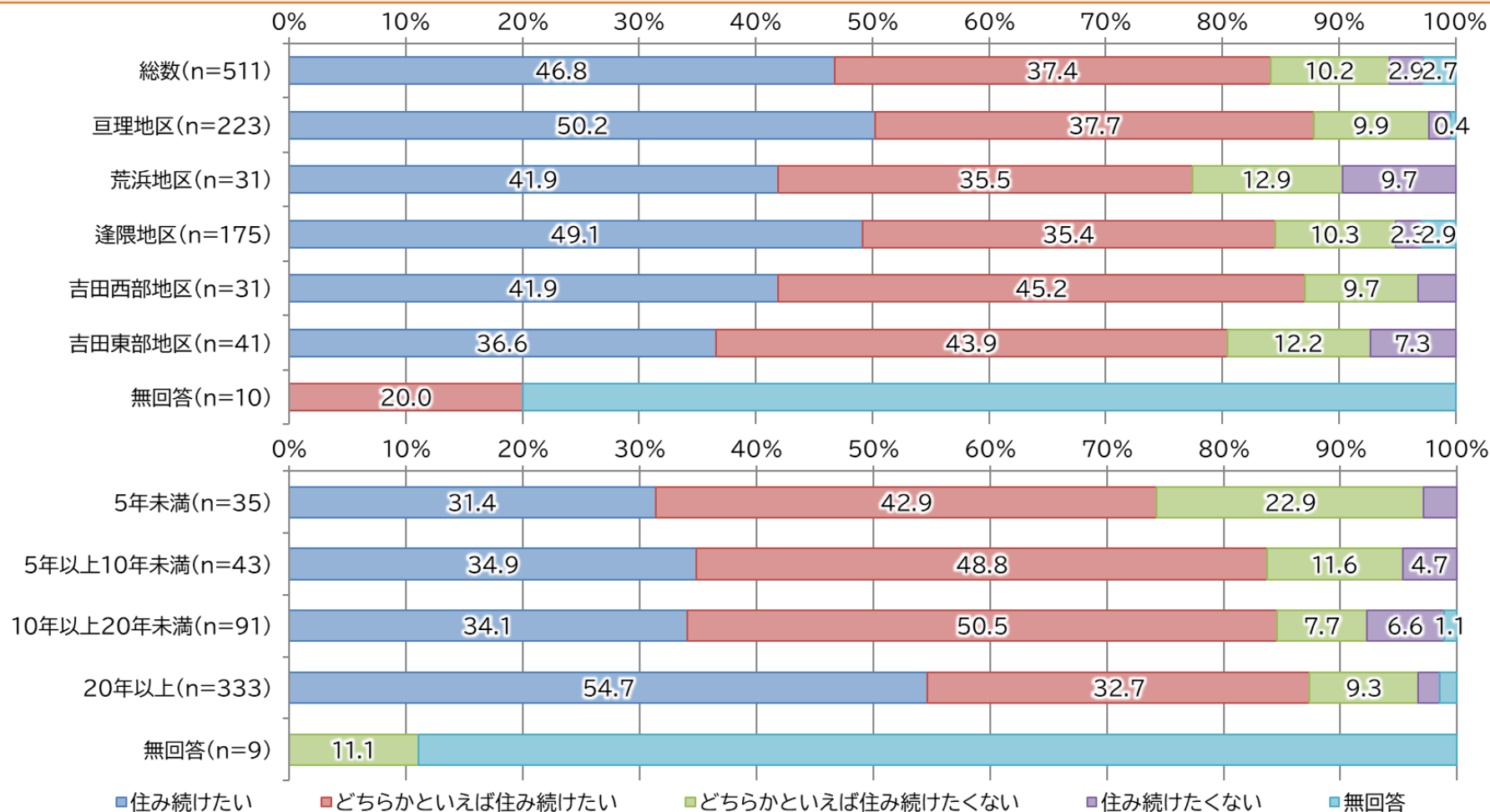
今後の居住意向は、全体の約84%が住み続けたいと思っており、年代が上がればその傾向も強くなっている。



2. 町民アンケート調査結果の報告

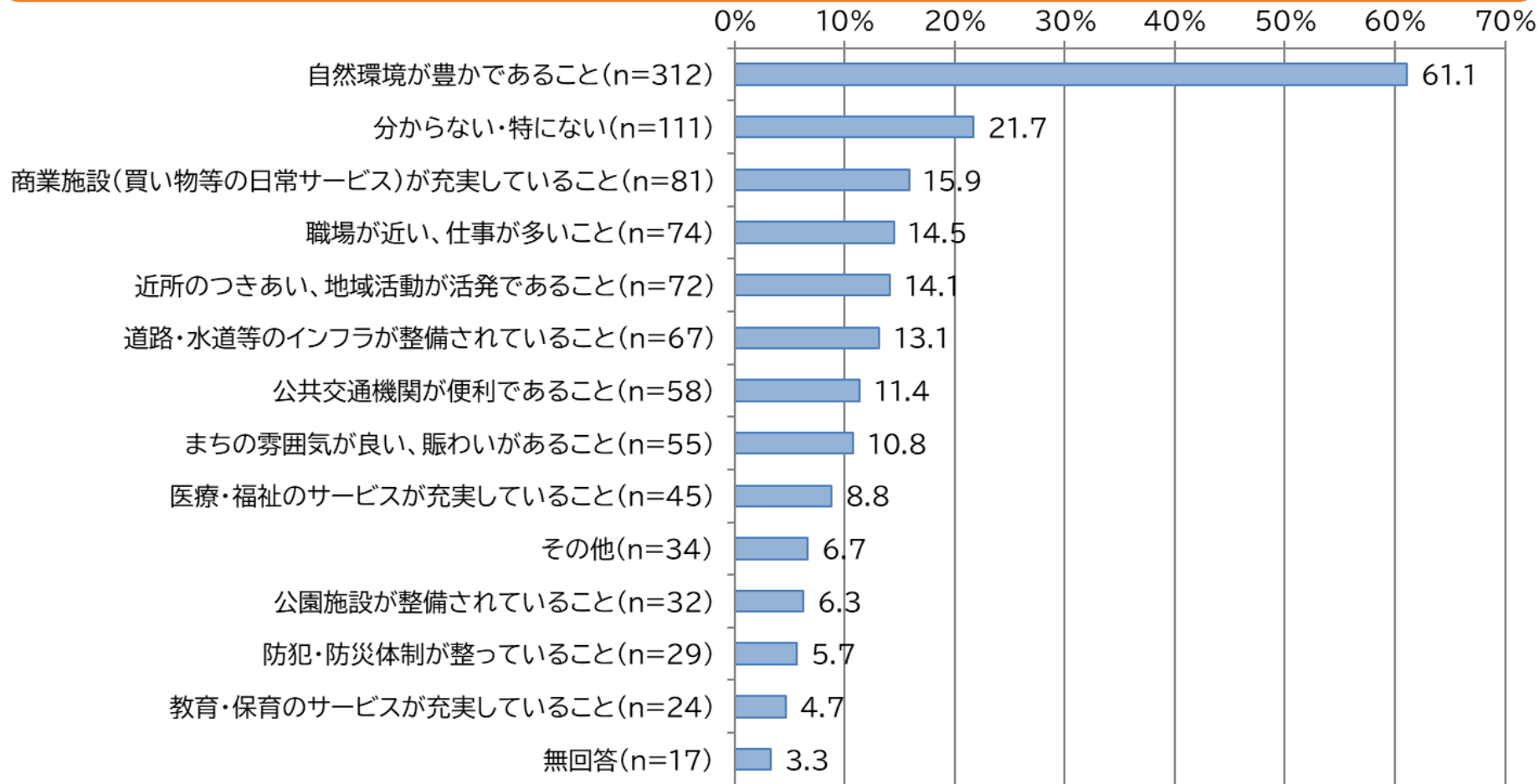
Q. 巨理町への今後の居住意向（居住地区別・居住年数別クロス集計）

今後の居住意向について、地区別では荒浜地区、吉田東部地区が他の地区と比較してやや居住意向が低い傾向にあり、居住年数別では5年未満が低い傾向にある。



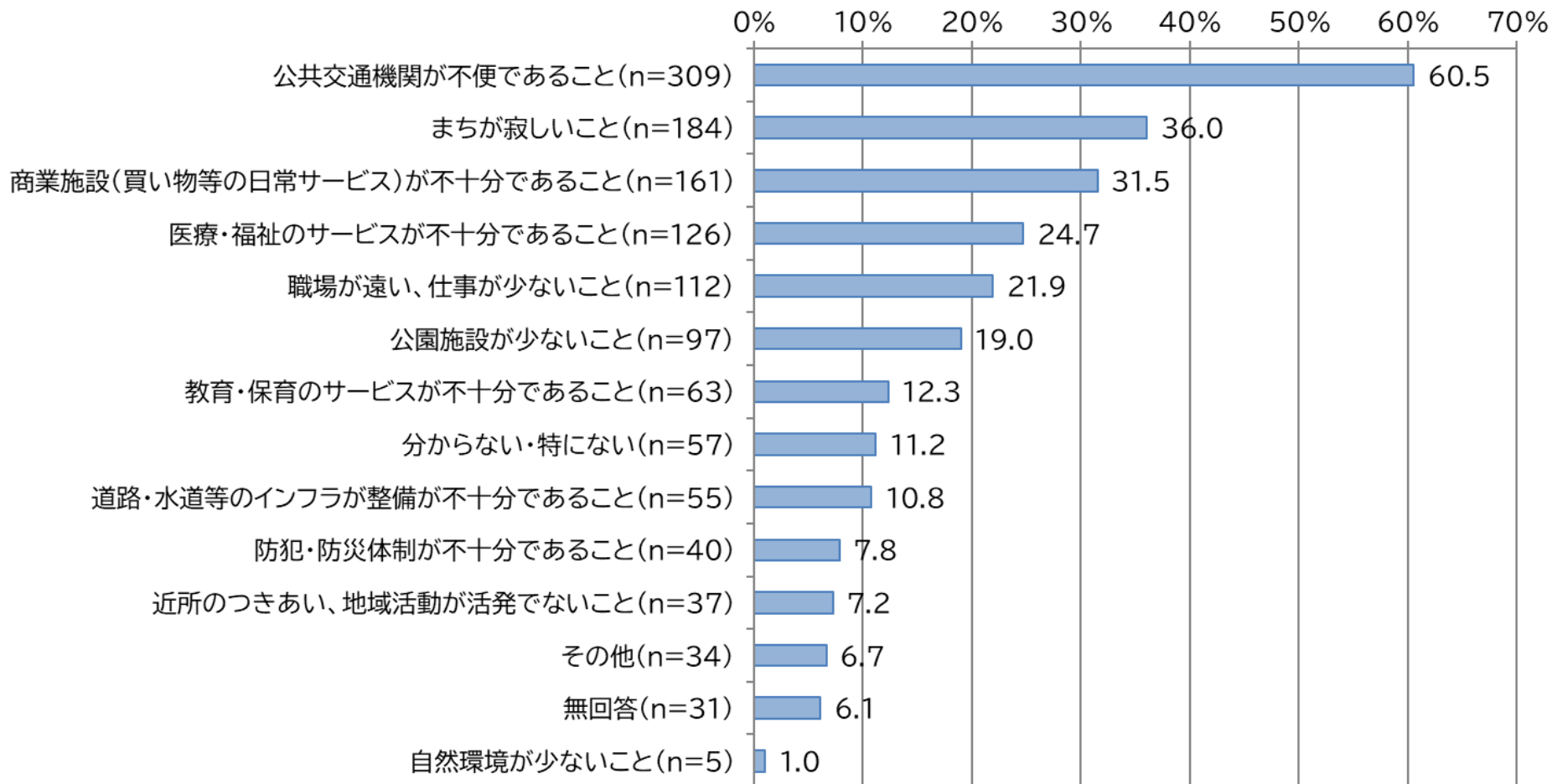
Q. 巨理町が住みやすいと感じる点（複数回答）

住みやすいと感じる点は、「自然環境が豊かであること」が61.1%と最も多くなっており、次いで「分からない・特にない」が21.7%となっており、自然環境以外の魅力が感じられていない状況にある。



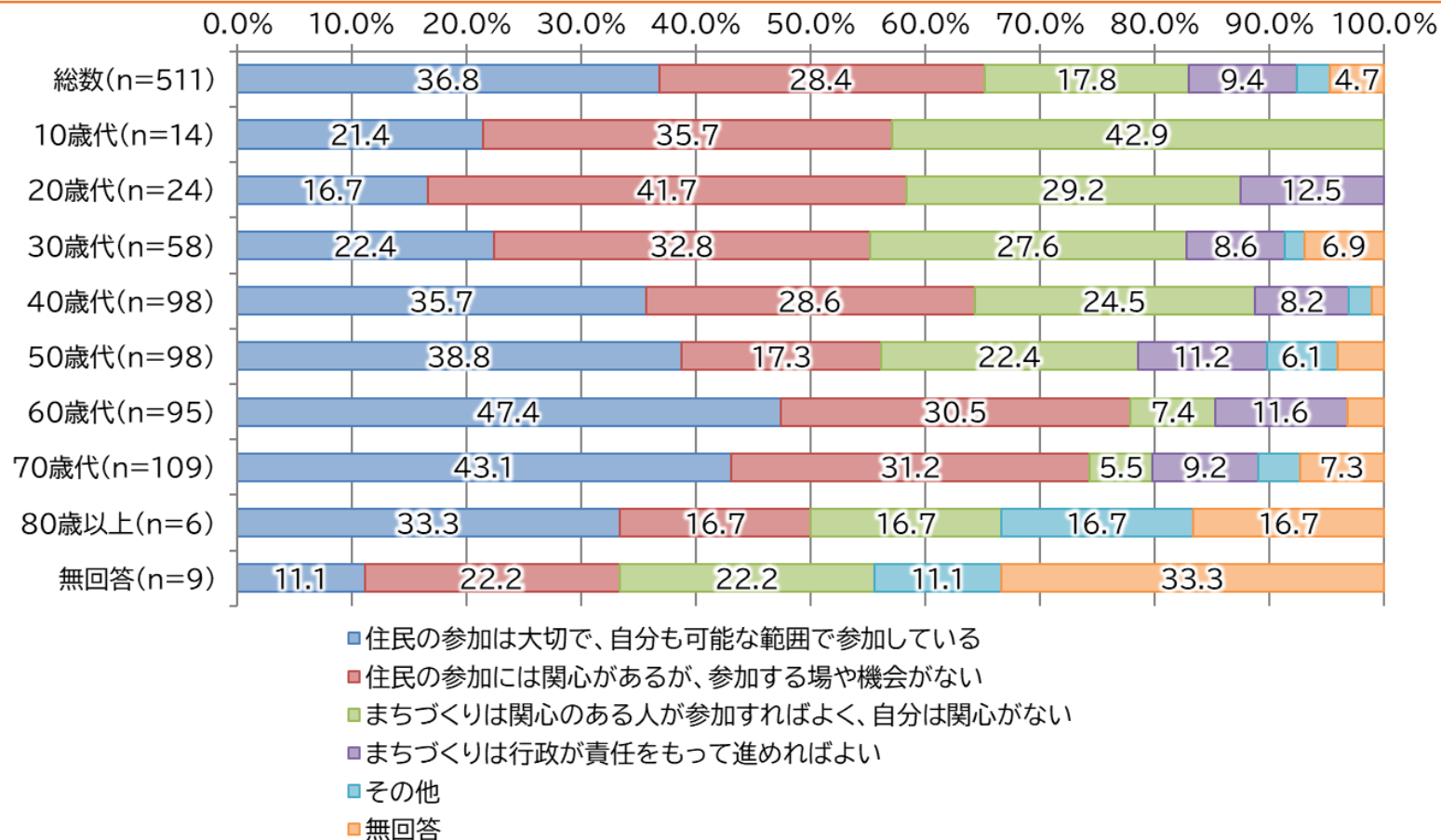
Q. 亘理町が住みにくいと感ずる点（複数回答）

住みにくいと感ずる点は、「公共交通機関が不便であること」が60.5%と最も多くなっており、次いで「まちが寂しいこと」が36%となっている。



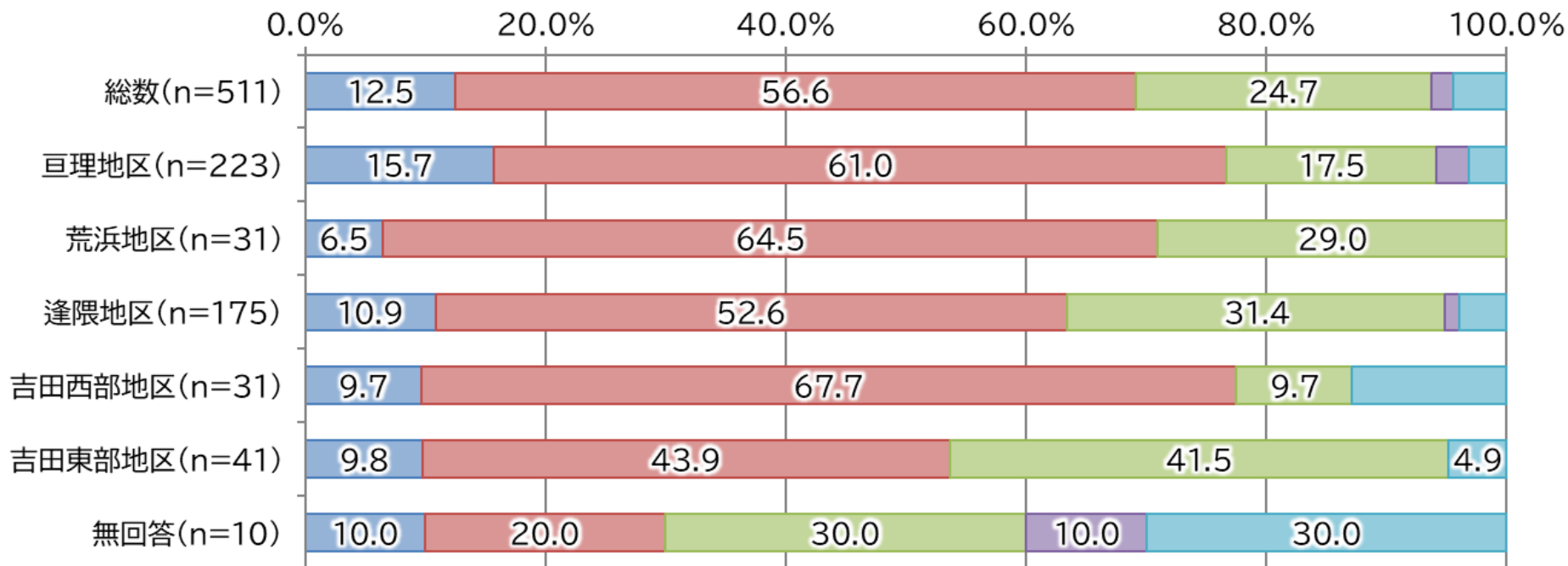
Q. 地域活動への参加状況（年代別クロス集計）

地域活動への参加状況は、年代が高くなるほど可能な範囲で参加している割合が多くなる傾向にあるが、10歳代・20歳代・30歳代は関心はあるが参加する機会や場がないと感じている。



Q. 人口減少下における地域活動のあり方（居住地区別クロス集計）

地域活動のあり方について、吉田東部地区と逢隈地区は継続しなくてもよいという割合が他の地区と比較して高い傾向にある。



- その地域に住む町民だけで可能な限り継続していくべきだと思う
- その地域に住む町民だけで継続できない場合は、行政や地域外からの支援を行いながら、継続していくべきだと思う
- その地域に住む町民だけで継続できない場合は、継続しなくてもよいと思う
- その他
- 無回答

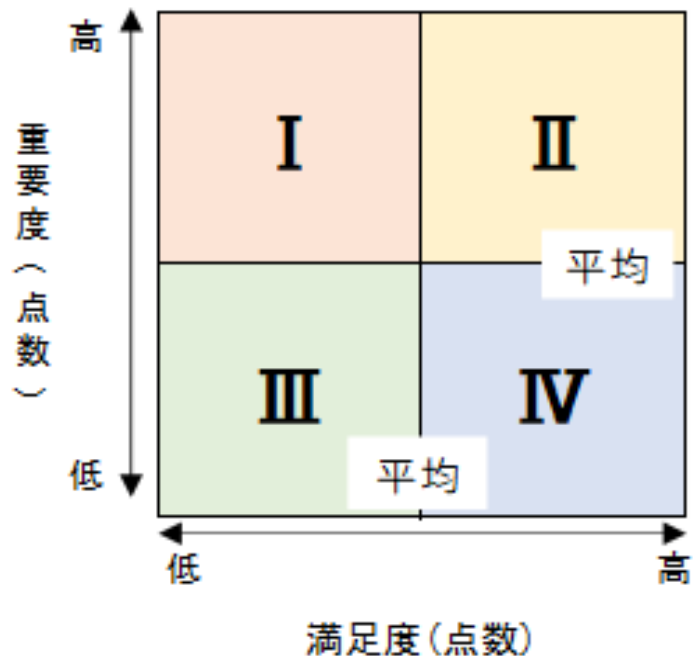
Q. 施策の満足度×重要度

《満足度・重要度の算出方法》

$$\text{満足度(点数)} = \frac{(\text{満足} \times 2\text{点}) + (\text{やや満足} \times 1\text{点}) + (\text{やや不満} \times -1\text{点}) + (\text{不満} \times -2\text{点}) + (\text{わからない} \times 0\text{点})}{\text{回答総件数(無回答を除く)}} \times 50$$

$$\text{重要度(点数)} = \frac{(\text{重要である} \times 2\text{点}) + (\text{やや重要である} \times 1\text{点}) + (\text{あまり重要でない} \times -1\text{点}) + (\text{重要でない} \times -2\text{点}) + (\text{わからない} \times 0\text{点})}{\text{回答総件数(無回答を除く)}} \times 50$$

《各領域の考え方》



領域Ⅰ：満足度が低く、重要度が高い

⇒優先的な対応が必要

領域Ⅱ：満足度が高く、重要度も高い

⇒重点的な対応の継続が必要

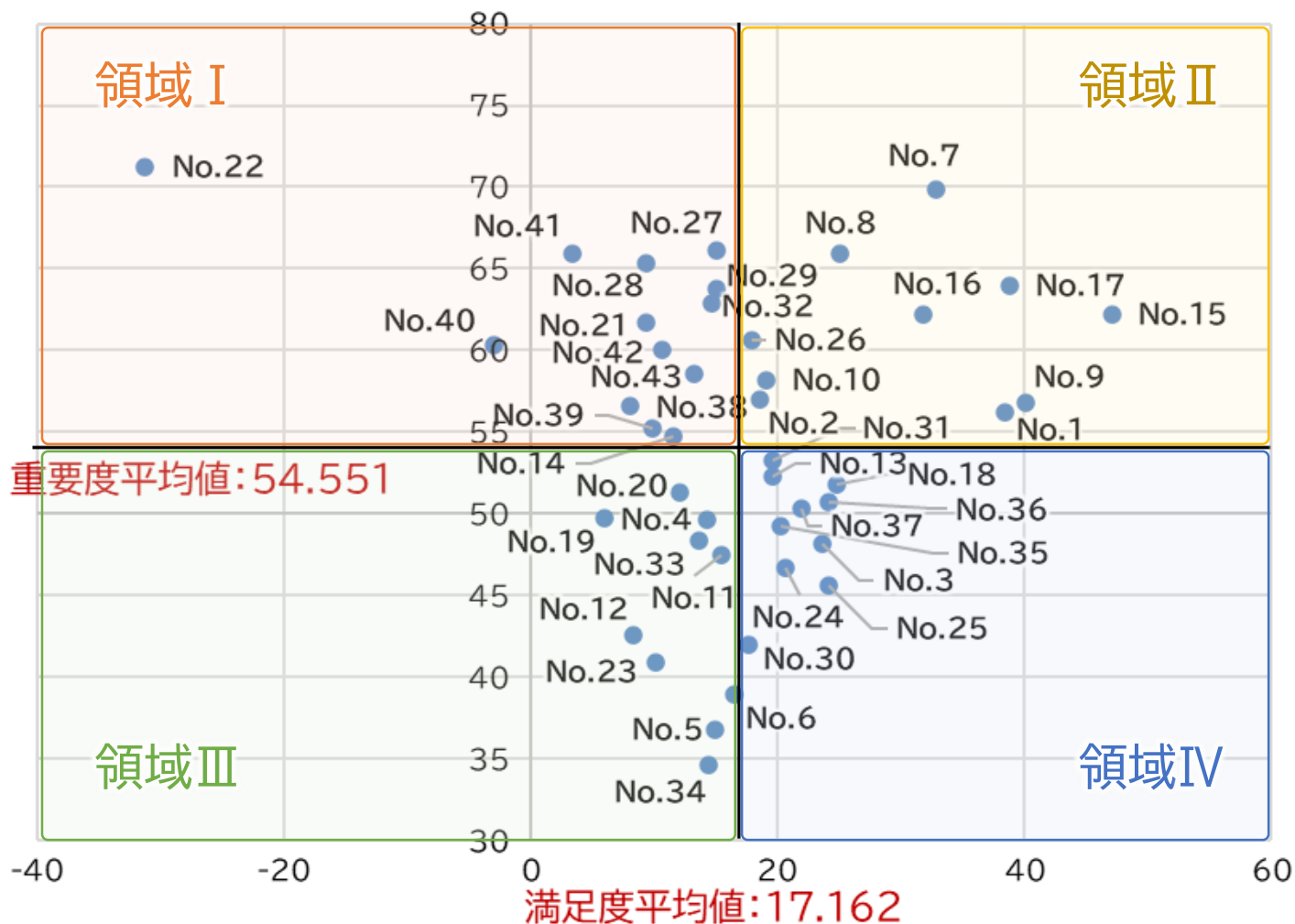
領域Ⅲ：満足度が低く、重要度も低い

⇒優先度が低いものの、対応が必要

領域Ⅳ：満足度が高く、重要度は低い

⇒現在の対応の維持が必要

Q. 施策の満足度×重要度



Q. 施策の満足度×重要度

領域Ⅰでは、「公共交通機関の便利さ」が満足度は最も低く、重要度が最も高くなっている。その他、満足度では職場、買い物の便利さの低さが挙げられ、重要度では保健・医療サービス、保育・子育て環境の高さが挙げられる。

領域Ⅰ：満足度が低く、重要度が高い(優先的な対応が必要)の項目

	満足度	重要度
No.14公園・緑地・広場の整備	11.54	54.69
No.21道路の整備	9.39	61.74
No.22公共交通機関の便利さ	-31.21	71.23
No.27保健・医療サービスや施設の整備	15.06	66.14
No.28保育・子育て環境(少子化対策)	9.29	65.36
No.29高齢者福祉	15.06	63.79
No.32子どもの教育環境	14.67	62.91
No.38商業の振興	8.02	56.55
No.39観光の振興	9.88	55.18
No.40働きがいのある職場	-2.93	60.37
No.41日常の買物の便利さ	3.42	65.94
No.42定住化の促進	10.66	60.07
No.43行財政運営の効率化	13.20	58.61

Q. 施策の満足度×重要度

領域Ⅱでは、自然環境の保全、上下水道整備、ごみ・リサイクルの満足度が高く、重要度では、火災・災害の安全性、防犯・交通安全整備、ごみ・リサイクルが高くなっている。

領域Ⅱ：満足度が高く、重要度も高い(重点的な対応の継続が必要)の項目

	満足度	重要度
No.1行政情報や催事情報の提供	38.45	56.16
No.2住民と行政の協働によるまちづくり	18.59	56.94
No.7火災や災害からの安全性(消防・防災対策)	32.87	69.86
No.8防犯、交通安全施設の整備の推進	25.04	65.94
No.9豊かな自然環境の保全	40.11	56.75
No.10騒音・振動・悪臭等の環境	19.08	58.21
No.15上水道の整備	47.06	62.23
No.16下水道等の整備	31.80	62.23
No.17ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備	38.74	63.99
No.26福祉サービスや施設の整備	17.90	60.66

Q. 施策の満足度×重要度

領域Ⅲでは、脱炭素への取り組み、土地利用、行政サービスのデジタル化の満足度が低くなっている。

領域Ⅲ：満足度が低く、重要度も低い(優先度が低いものの、対応が必要)の項目

	満足度	重要度
No.4コミュニティ活動や環境整備の推進	14.28	49.60
No.5ボランティア活動やNPO 活動	14.87	36.79
No.6男女共同参画社会の推進	16.53	38.94
No.11再生可能エネルギーの活用	15.45	47.45
No.12脱炭素やゼロカーボンシティへの取り組み	8.31	42.56
No.19調和のとれた土地利用	5.96	49.70
No.20市街地や公共ゾーンの整備	12.03	51.27
No.23行政サービスのデジタル化の推進	10.07	40.90
No.33スポーツ活動や施設の整備	13.69	48.33
No.34国際交流・地域間交流	14.38	34.63

Q. 施策の満足度×重要度

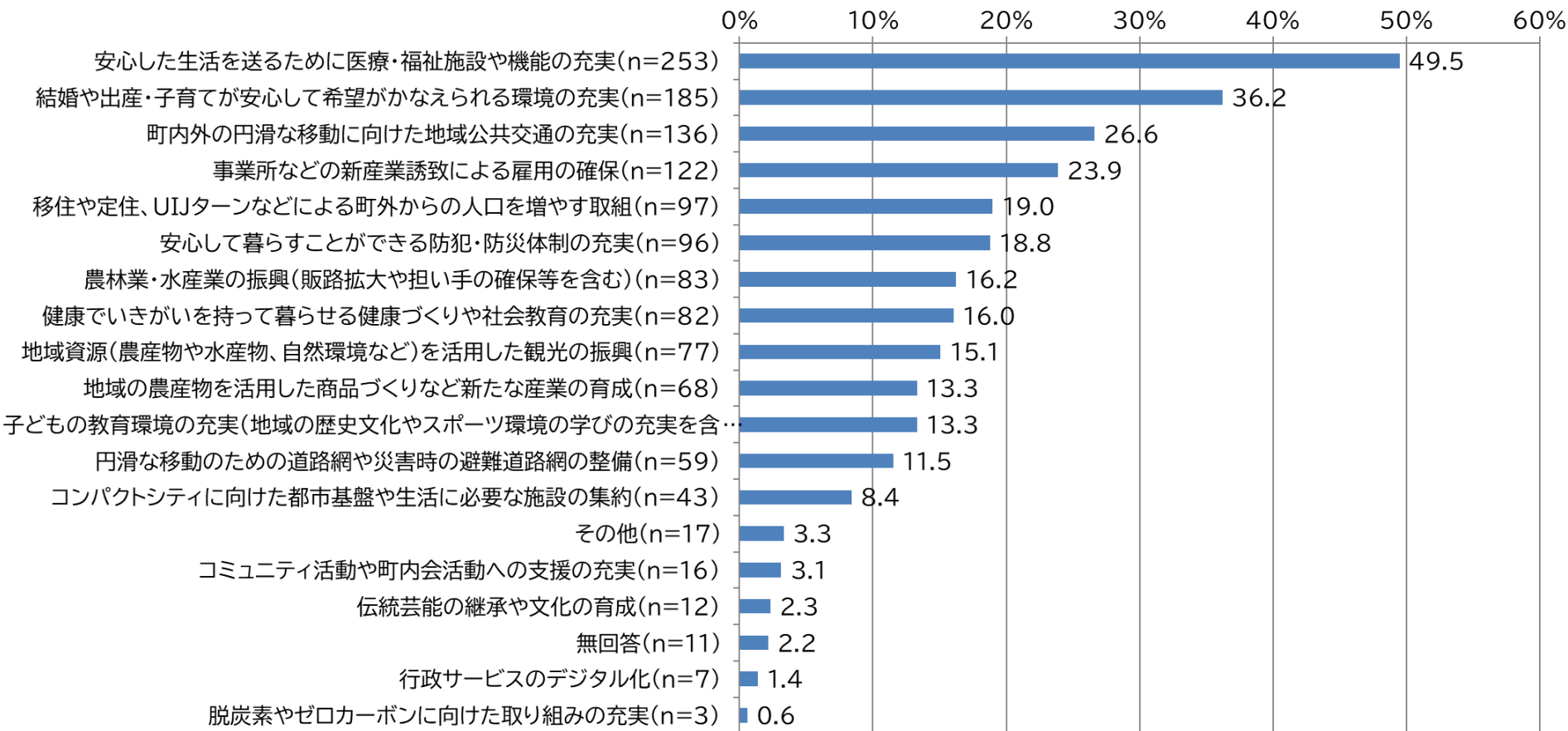
領域Ⅳでは、墓地・火葬場の整備、住宅・宅地整備、水産業の振興の満足度が高くなっている。

領域Ⅳ:満足度が高く、重要度は低い(現在の対応の維持が必要)の項目

	満足度	重要度
No.3人情味や地域の連帯感	23.58	48.14
No.13美しい自然景観や街並み景観の形成	19.56	52.25
No.18墓地・火葬場の整備	24.85	51.76
No.24インターネット環境など情報通信体系の整備	20.64	46.67
No.25住宅・宅地の整備	24.16	45.59
No.30生涯学習活動、芸術・文化活動や施設の整備	17.71	41.97
No.31青少年の健全育成	19.66	53.22
No.35農林業の振興	20.25	49.21
No.36水産業の振興	24.16	50.68
No.37工業の振興	21.91	50.29

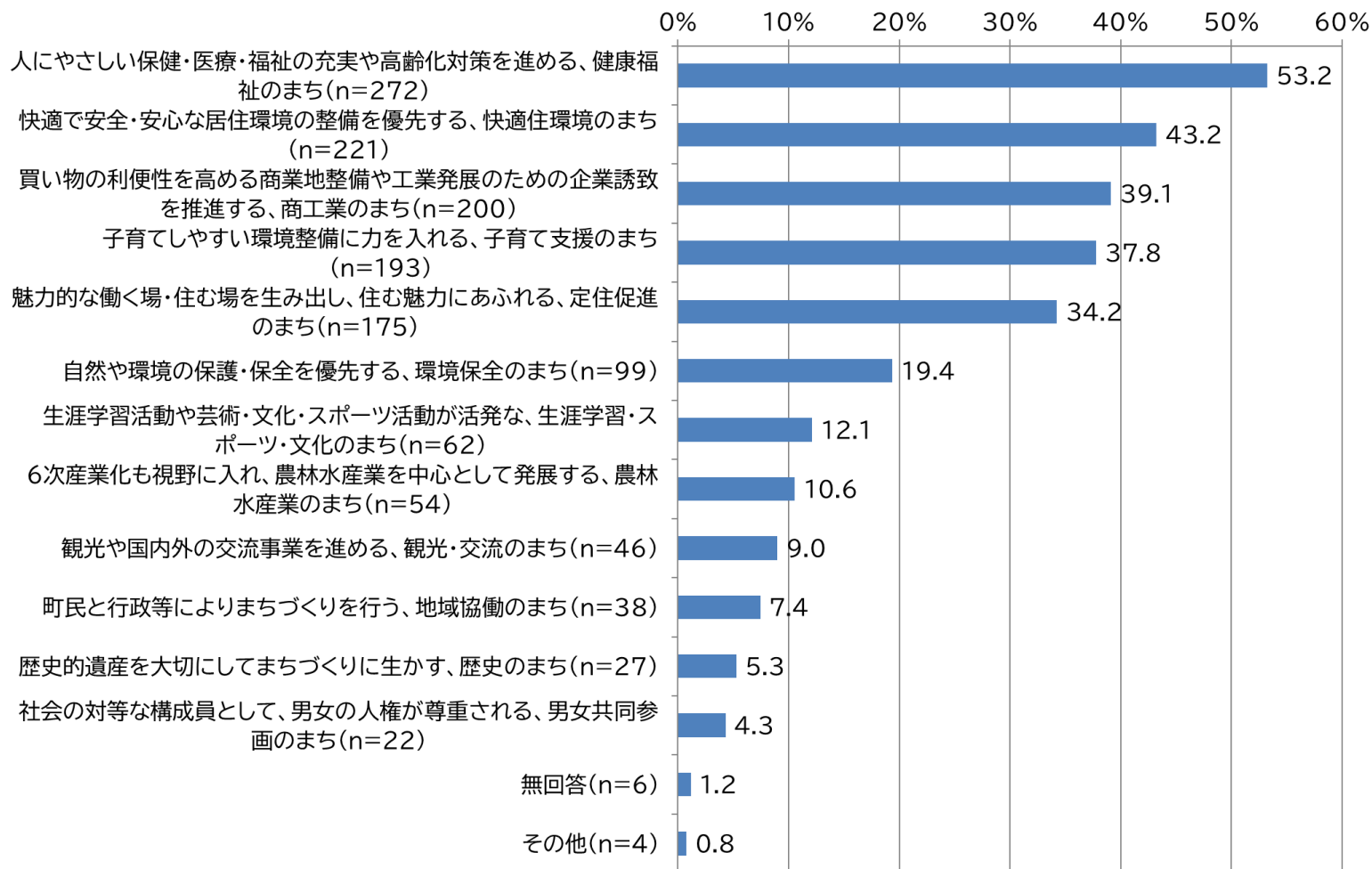
Q. 今後、町が力を入れるべき取り組み

今後力を入れるべき取り組みは、医療・福祉施設の充実が49.5%と最も多くなっており、次いで結婚・出産・子育てがかなえられる環境の充実が36.2%となっている。



Q. 将来、亶理町がどのような町になってほしいか

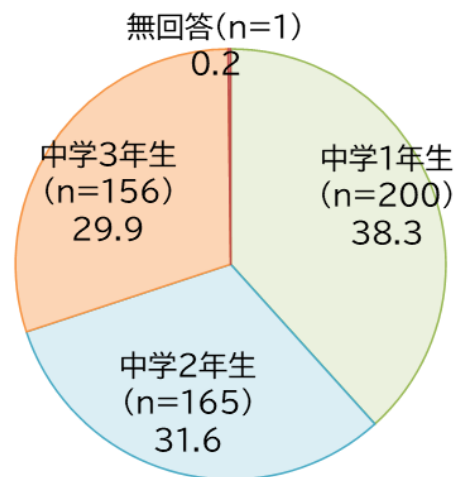
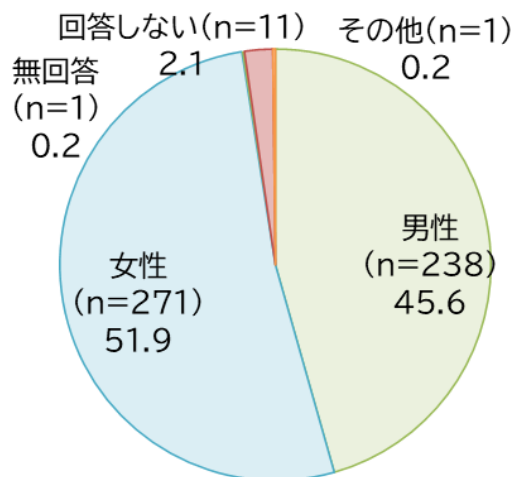
町の将来像は、健康福祉のまちが53.2%と最も多くなっており、次いで快適住環境のまちが43.2%となっている。



“中学生アンケート調査概要”

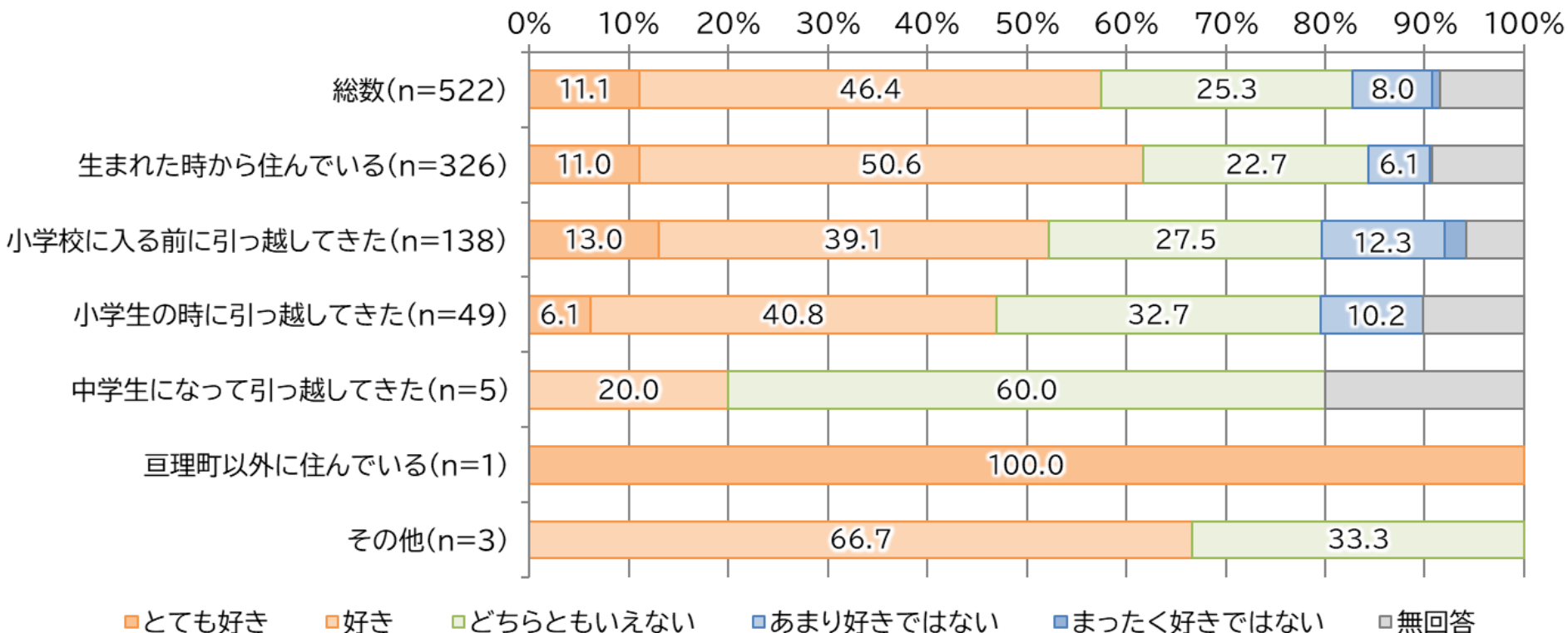
調査対象	2024年9月中旬～下旬		
調査期間	亘理町内の中学生 全831名		
実施方法	中学校ごとに直接配布・回収		
回収数	計522件(回収率:62.8%) (内訳)	亘理中学校 232件 逢隈中学校 199件	吉田中学校 55件 荒浜中学校 36件
必要標本数	263件 ※設定条件は、町民アンケート調査と同じ		

《回答者属性》



Q. 巨理町が好きかどうか（居住年数別クロス集計）

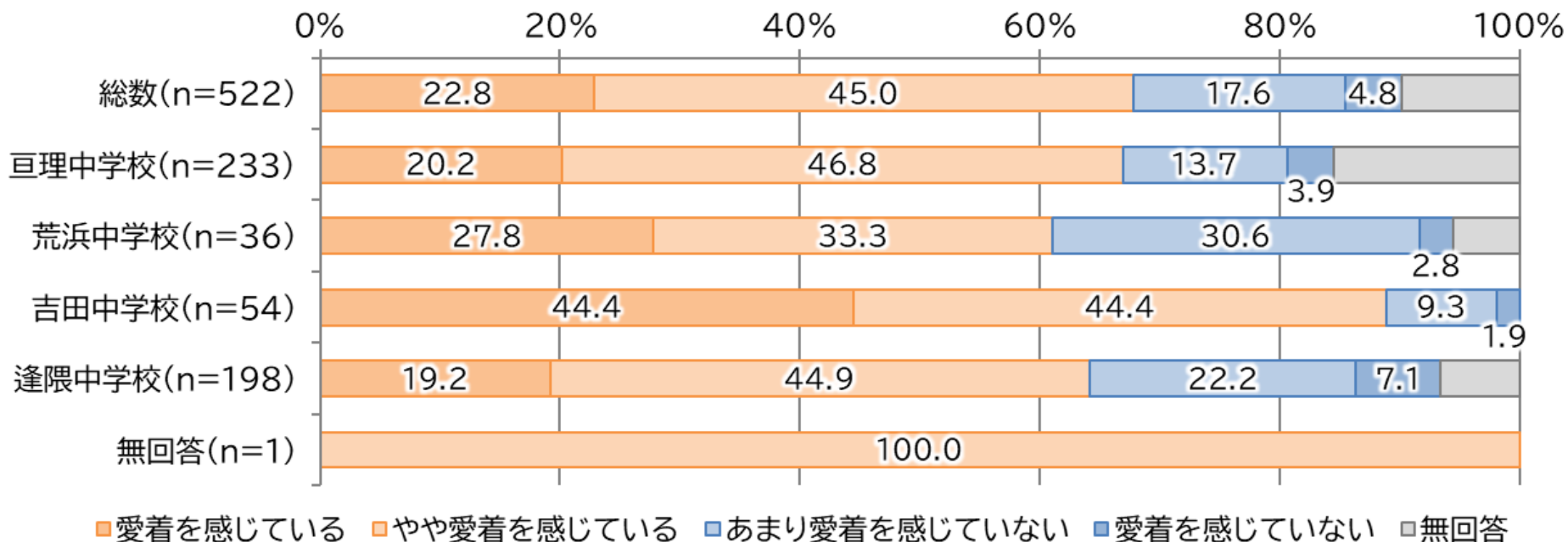
巨理町が好きかどうかについて、全体の約57%が好きであると回答しており、居住年数が長いほどその傾向が強いことから、居住年数と愛着度には相関がみられる。



3. 中学生アンケート調査結果の報告

Q. 亘理町に対する愛着や誇りの有無（中学校別クロス集計）

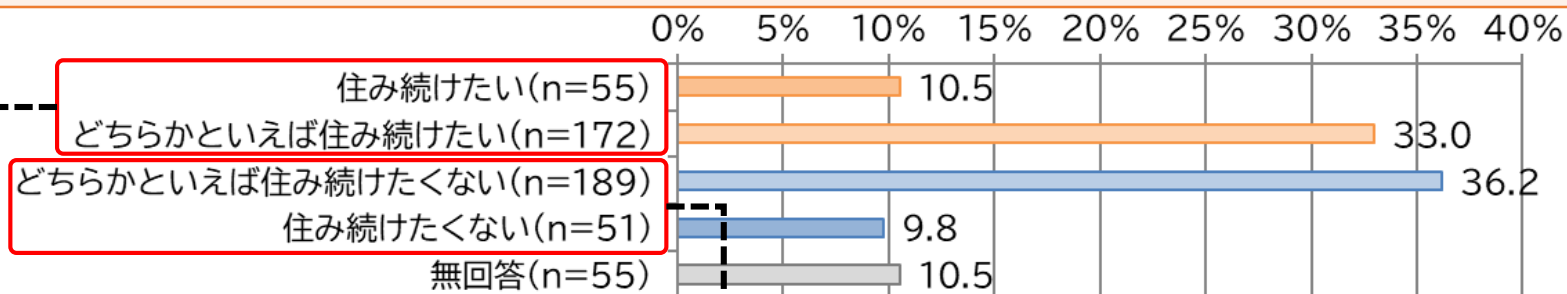
愛着や誇りの有無について、全体では約67%が愛着や誇りがあると回答しており、特に吉田中学校はその傾向が強くなっている。



Q. これからも亘理町に住み続けたいと思いますか？

今後の居留意向について、全体の約43%が住み続けたいと回答している一方で、約46%が住み続けたくないと回答している。

住み続けたい理由は「親しい友人がいるから」や「生まれ育ったところだから」が多くなっており、住み続けたくない理由は「働きたい場所がない」や「都会的ではない」が多くなっている。



“その理由”の上位4項目

親しい友人がいるから
(66.5%, n=151)

生まれ育ったところだから
(59.5%, n=135)

自然環境が豊かだから
(41%, n=93)

おいしい食べ物が多いから
(32.2%, n=73)

“その理由”の上位4項目

将来、働きたい場所がないから
(51.3%, n=123)

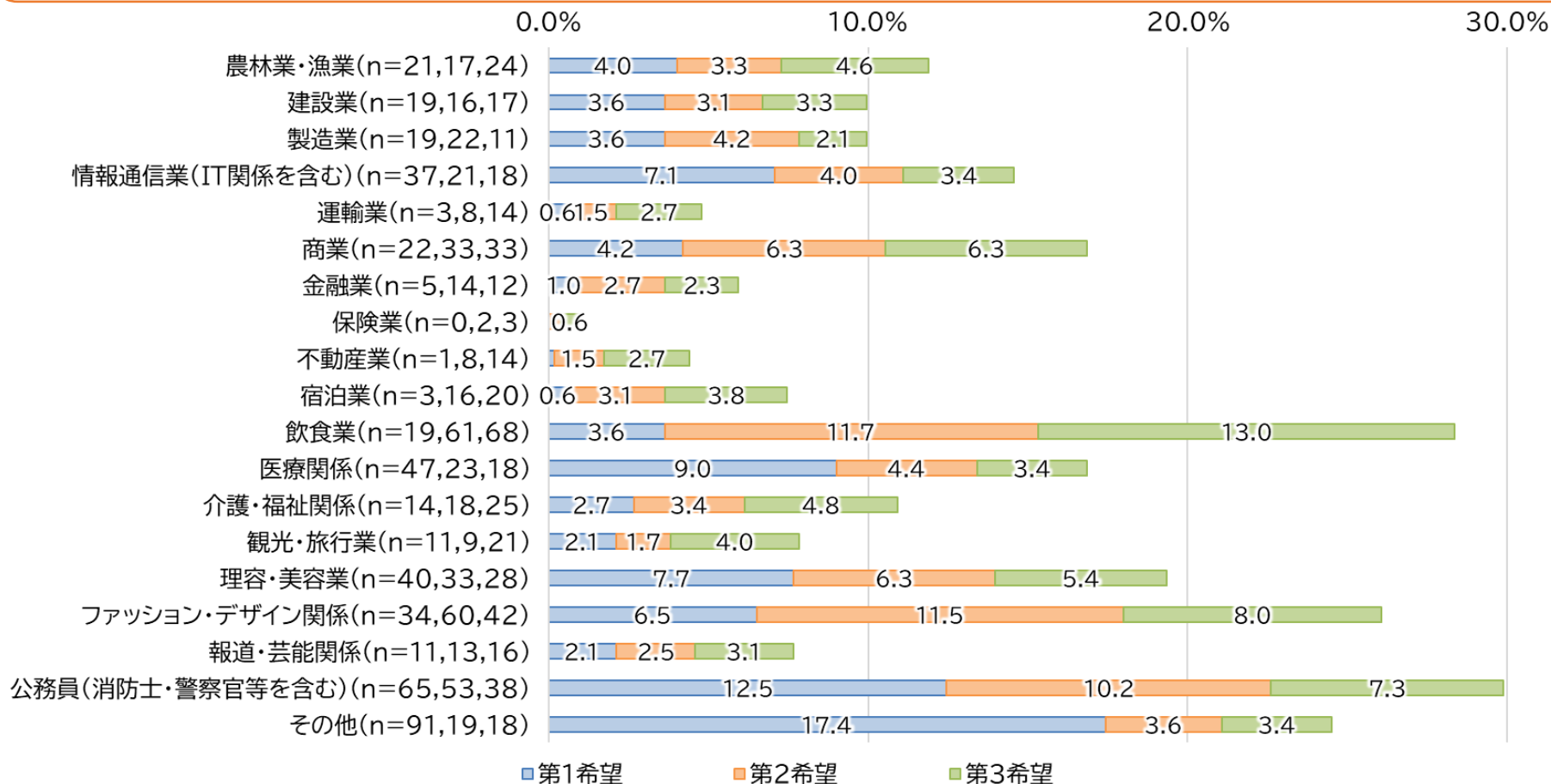
あまり都会的ではないから
(47.1%, n=113)

娯楽施設など遊べる場所がないから
(44.6%, n=107)

違う環境で自分の力を試したいから
(32.5%, n=78)

Q. 将来、働きたい職業

将来働きたい職種は、公務員が最も多くなっており、次いで飲食業、ファッション・デザイン関係と、町内で就労できない分野への希望も多くなっている。特に、第1希望では、そのほかが多くなっていることから、希望する職種が多様化していると推測できる。



●中学生ワークショップの結果報告（要約・概要）

STEP① 亘理町の良いこと・良くないこと

亘理町の良いところは、“特産物”に関することや“住生活環境”に関することが多く挙げられ、比較的**普段目にする光景や景色に係る項目**が多く挙がっていた。

その一方で、人が温かいことや住民同士の仲が良いことといった**“コミュニティ環境が良好”**であることも挙げられていた。

亘理町の良くないところは、移動手段といった**“公共交通”**に関することや**“施設が不足・管理不足”**であること、“**道路状況・環境**”に関することが多く挙げられ、比較的ハード整備に係る点が挙げられていた。

その一方で、大きなお店がないことや夜の騒音、ごみの問題といった**“環境・衛生面が良くない点”**についても挙げられていた。

STEP② どんな町になってほしいという理想像

将来像は、“**高齢者や子どもの安全**”や“**環境のきれいさ**”、“**就職環境**”、“**道路環境**”といった多様な視点から**現在の環境を向上させた姿**があり、“**都会過ぎない亘理らしさ**”や“**都会ではないまち**”、“**やりたいことができるまち**”といった**亘理町の今の良さを引き続き維持し、さらに良くしていくことが望まれている。**

そのための手段や方法として、“**公園や外灯、お店を増やす**”といった**ハード整備**を行うことや“**子育て世帯への補助**”や“**町のPR**”、“**お試し移住**”といった**ソフト施策**を行うことも挙げられ、**現実性の高い意見**となっている。

前回の審議会・各調査結果等を踏まえて精査した課題

現時点での課題

課題① 人口減少・少子高齢化社会への対応

課題② 地域コミュニティの更なる育成と他分野との連携

課題③ 町外流出の抑制

課題④ 若者世代の移住・定住の促進

課題⑤ 安心して生活できる公共交通ネットワークの充実

課題⑥ 基幹産業の更なる発展に向けた“働く場”の創出

課題⑦ 豊かな地域資源の利活用の推進

課題⑧ 学力向上・心の豊かさ・健やかな体の発達に向けた人材育成

課題⑨ 財政の健全化と多様化する町民ニーズに対応する施設の維持・管理

導かれる大きな方向性

方向性① 町民を町に残す取り組み

方向性② 行政と地域の役割分担

方向性③ 移住・定住施策の強化

方向性④ 移住・定住者を支える基盤づくり

方向性⑤ 既存施設の計画的統廃合

方向性⑥ 既存施設・遊休地等の利活用

方向性⑦ 運用・運営体制の再構築

方向性⑧ 計画的な町政運営

(1) 中学生WSの開催結果のまとめ（再掲）

STEP① 亘理町の良いこと・良くないこと

亘理町の良いことは、“**特産物**”に関することや“**住生活環境**”に関することが多く挙げられ、比較的**普段目にする光景や景色に係る項目**が多く挙がっていた。

その一方で、人が温かいことや住民同士の仲が良いことといった“**コミュニティ環境が良好**”であることも挙げられていた。

亘理町の良くないことは、移動手段といった“**公共交通**”に関することや“**施設が不足・管理不足**”であること、“**道路状況・環境**”に関することが多く挙げられ、比較的ハード整備に係る点が挙げられていた。

その一方で、大きなお店がないことや夜の騒音、ごみの問題といった“**環境・衛生面が良くない点**”についても挙げられていた。

STEP② どんな町になってほしいという理想像

将来像は、“**高齢者や子どもの安全**”や“**環境のきれいさ**”、“**就職環境**”、“**道路環境**”といった多様な視点から**現在の環境を向上させた姿**があり、“**都会過ぎない亘理らしさ**”や“**都会ではないまち**”、“**やりたいことができるまち**”といった**亘理町の今の良さを引き続き維持し、さらに良くしていくことが望まれている**。

そのための手段や方法として、“**公園や外灯、お店を増やす**”といった**ハード整備**を行うことや“**子育て世帯への補助**”や“**町のPR**”、“**お試し移住**”といった**ソフト施策**を行うことも挙げられ、**現実性の高い手段**となっている。

(2) 町民アンケート調査結果-将来どのような町になってほしいか-

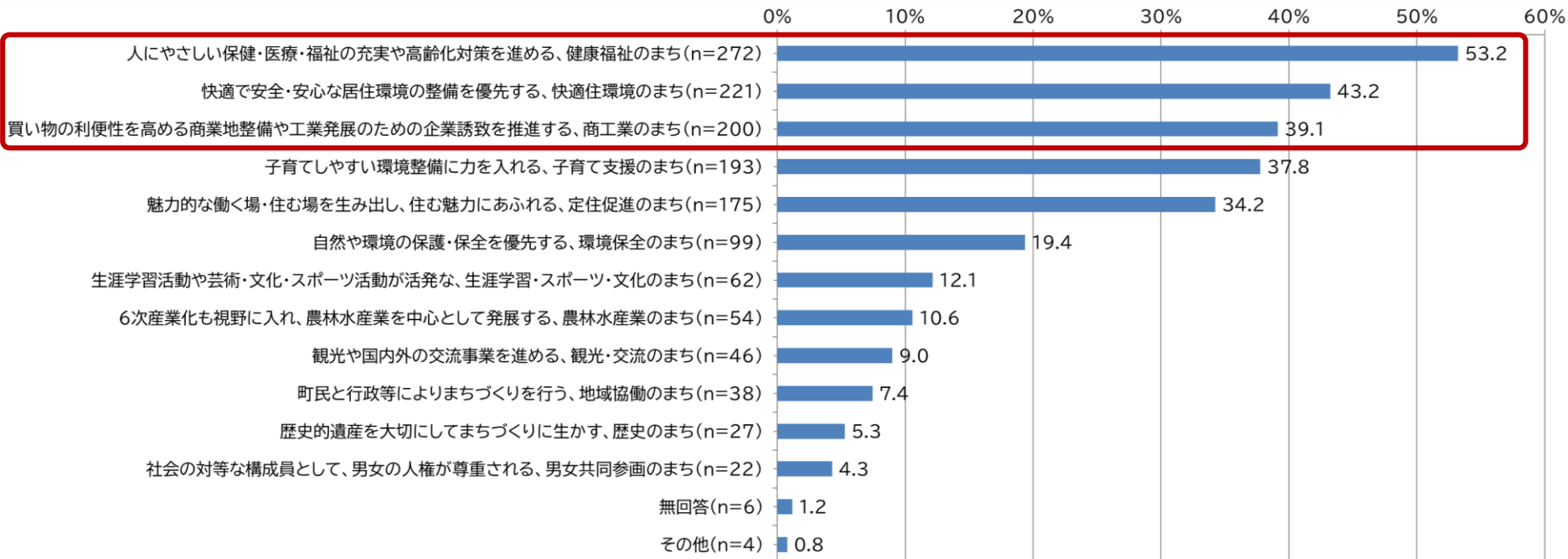
《回答の多い上位3項目》

1. 人にやさしい保健・医療・福祉の充実や高齢化対策を進める、健康福祉のまち (53.2%)

2. 快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する、快適住環境のまち (43.2%)

3. 買い物の利便性を高める商業地整備や工業発展のための企業誘致を推進する、商工業のまち (39.1%)

■ (参考) 町民アンケート調査結果-将来どのような町になってほしいか-について(複数回答、回答者数511名)



(3) 考えられる将来都市像 (案)

考え方

- ▶中学生WSにて、亘理町の“現在の良さを維持・向上させていく”という想いや“都会過ぎない亘理らしさ”、“都会ではないまち”という想いや現行計画の“山・川・里・海”を踏襲し、“自然”というキーワードに集約
- ▶現行計画の“人と時代をつなぐまち”のその先にある姿として、町民全員が“笑顔”で過ごせることを表現

- ▶亘理町の4地区ごとに異なる歴史や文化、地域事情を踏襲していきながらも、今後の新たなまちづくりの結果として、元から住んでいる方、今後転入する方、Uターンする方など多様なバックグラウンドを持つ町民を意識し、“みんな”を強調するほか、中学生WSにて、“やりたいことができるまち”という想いを踏まえて、“夢が叶うまち”、“希望が実現できる”ことを表現
- ▶また、亘理町を“住む場所”、“働く場所”、“戻って来れる場所”として選択する人すべてが、その理想的な暮らしを実現できるまちとすることを表現

- ▶多様なバックグラウンドを持つ人々により形成されてきた亘理町について、この先10年先の亘理町を担う人材育成、これまで築き上げてきた歴史や文化、風習等を次世代に受け継ぐことを表現
- ▶町民アンケート調査における希望する将来のまちの姿を踏まえて“心身ともに健康であること”や“環境面”、中学生WSにおける“自然の豊かさ”や“衛生環境”等を踏まえた表現

将来都市像 (案)

1

自然と調和し、
みんなの笑顔があふれるまち わたり

2

みんなの夢が叶い、
希望が実現できるまち わたり

3

心・自然・環境の豊かさを
次世代に渡り、受け継ぐまち わたり

【参考:現行計画の将来都市象】

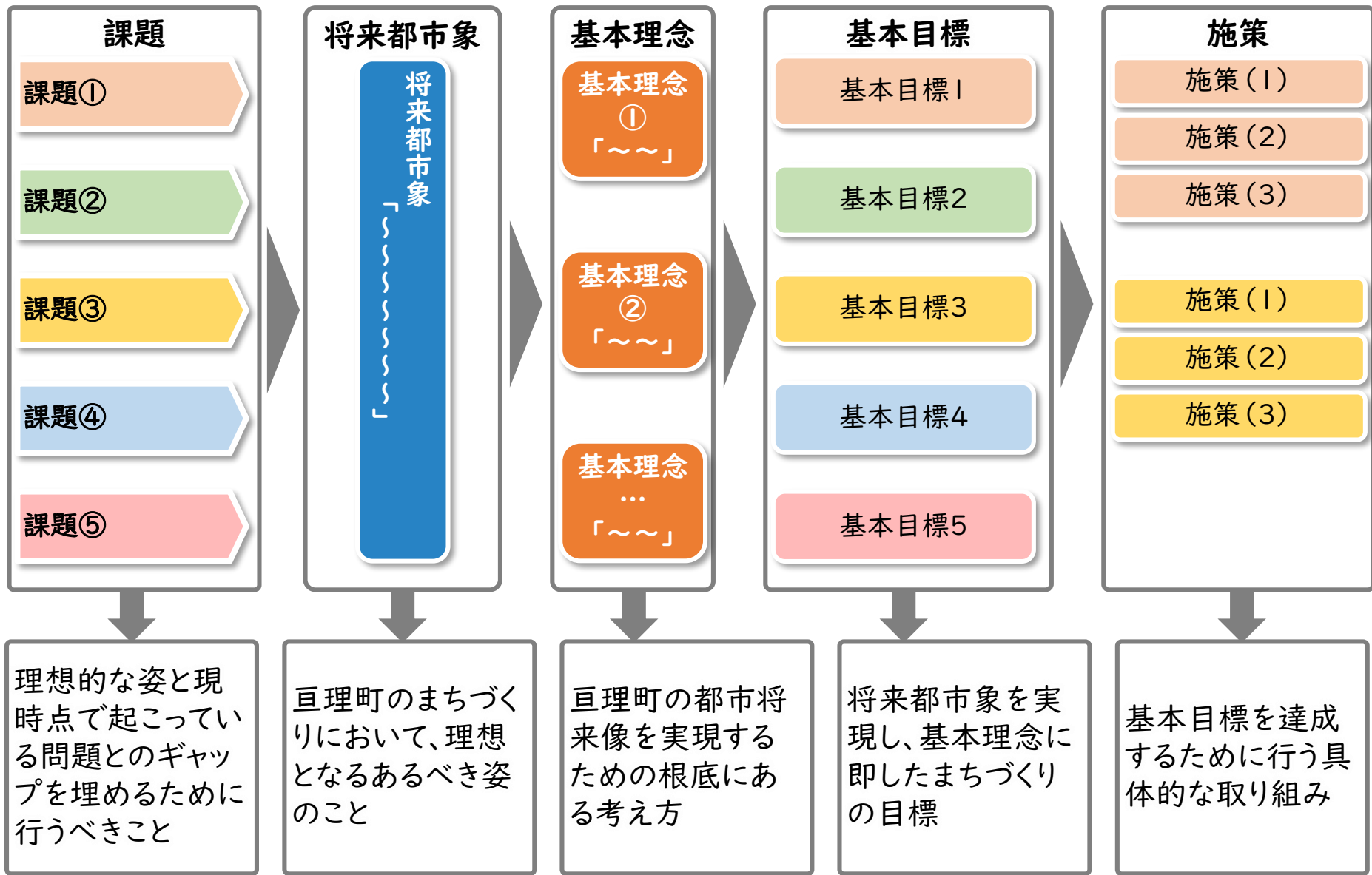
将来都市像設定のキーワード

- 巨理町の自然環境 … 「山と川、里と海」がワンセット
⇒ 様々な環境をいかし、町民も来訪者も豊かに暮らし・過ごせる環境を形成
- 巨理町の歴史 … 町民がこれまで築き上げてきた歴史や文化
⇒ これまでの「時代」の流れ（時の流れ）を未来に「つなぐ」環境を形成
- 巨理町の課題 … 大きな課題は定住促進
⇒ 暮す「人」・訪れる「人」が巨理町で過ごす時間の価値を高める環境を形成
⇒ 暮す「人」・訪れる「人」の交流（「つながり」）を通じて課題へ対応

【将来都市像】

(時の流れ)

山と川、里と海を人と時代でつなぐまち



例) 第5次巨理町総合発展計画策定の際の設置状況

部 会	分 野
総 務 部 会	総務、企画、財政、税務、町民、環境などに関する事項の検討
産 業 部 会	農政、商工、水産、観光などに関する事項の検討
まちづくり部会	道路、都市計画、上下水道、施設管理、まちづくりなどに関する事項の検討
保健福祉部会	保健、福祉などに関する事項の検討
教 育 部 会	教育などに関する事項の検討

総合発展計画の策定に関し、専門的な審議を行うため、分野別に専門部会を設置いたします。専門部会では、分野別に詳細な審議を行い、審議した結果を審議会に報告します。